

平成 26 年度に実施した高等専門学校機関別 認証評価に関する検証結果報告書

平成 28 年 3 月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

はじめに

大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）では、評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

機構は、平成 17 年 7 月に文部科学大臣が認証する評価機関（以下「認証評価機関」という。）となって以降、はじめての経験となった平成 17 年度実施の高等専門学校機関別認証評価において、評価の終了後、評価対象校及び機構側の評価担当者（以下「評価担当者」という。）へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行った。その結果から、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握して、平成 18 年度実施の認証評価に反映させた。同様に翌年度に実施した高等専門学校の機関別認証評価においても評価終了後、アンケート調査を実施し、検証を行いそれぞれ平成 19 年度から平成 26 年度実施の認証評価に改善点等を反映させた。この検証結果は年度ごとに「高等専門学校機関別認証評価に関する検証結果報告書」としてまとめている。

平成 26 年度実施の高等専門学校機関別認証評価においても、アンケート調査を実施して検証を行うこととし、ここに平成 26 年度実施の認証評価（15 高等専門学校）に関する調査及び検証結果を取りまとめた。

目 次

はじめに

I 機構が実施した高等専門学校機関別認証評価の概要	1
---------------------------	---

II 平成 26 年度実施の認証評価に関する検証

1. 検証の実施方法	4
------------	---

2. 項目別の検証

(1) 評価基準及び観点について	7
(2) 説明会・研修会について	8
(3) 自己評価書について	9
(4) 書面調査・訪問調査について	10
(5) 評価結果（評価報告書）について	12
(6) 評価の効果・影響について	14
(7) 評価の作業量等について	16
(8) 前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善 について	18
(9) 評価についての全般的な意見・感想について	20

3. 対象校及び機構の取組

(1) 認証評価結果を受けた対象校の改善取組例	21
(2) アンケートで寄せられた意見と機構の取組例	22

参考資料

1 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答） 【対象校】	25
2 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答） 【評価担当者】	31
3 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述） 【対象校】	35
4 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）	

【評価担当者】	50
5 認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】	
（高等専門学校用）	64
6 認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】	
（高等専門学校用）	88

I 機構が実施した高等専門学校機関別認証評価の概要

平成 26 年度に実施した認証評価の検証を示すに当たって、まず機構が実施した高等専門学校の機関別認証評価の概要について触れておく。

高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の総合的な状況に関し、7 年以内ごとに、認証評価機関の実施する評価を受けることが義務付けられている（学校教育法第 109 条、同法第 123 条及び学校教育法施行令第 40 条）。

機構は、この認証評価制度の下で、高等専門学校の認証評価を行う「認証評価機関」として、平成 17 年 7 月、文部科学大臣から認証され、平成 17 年度より認証評価を開始した。平成 26 年度実施分の認証評価は 9 年目の実施に当たる。なお、平成 23 年度から、機構が実施する評価の第 2 サイクル期間に移行した。

1. 目的

認証評価は、我が国の高等専門学校の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに、その個性的で多様な発展に資するよう、以下のことを目的として行っている。

- (1) 機構が定める高等専門学校評価基準に基づいて、高等専門学校を定期的に評価することにより、高等専門学校の教育研究活動等の質を保証すること。
- (2) 評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てること。
- (3) 高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、公共的な機関として高等専門学校が設置・運営されていることについて、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

2. 実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立高等専門学校の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる高等専門学校機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象高等専門学校（以下「対象校」という。）の状況に応じた評価部会等を編成した。

評価部会等には、各高等専門学校の教育分野やその状況が多様であること等を勘案し、対象校の学科等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

3. 評価のプロセス

評価のプロセスの概要は、下記のとおりである。

(1) 高等専門学校における自己評価

各高等専門学校は、『自己評価実施要項』に従って、自己評価を実施し、自己評価書を作成し、機構に提出した。

(2) 機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

① 書面調査は、『評価実施手引書』に基づき、対象校から提出された自己評価書（高等専門学校の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象校の状況を調査・分析した。

② 訪問調査は、『訪問調査実施要項』に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。

③ 基準ごとに、自己評価の状況を踏まえ、高等専門学校全体として、その基準を満たしているかどうかの判断を行い、理由を明らかにした。

なお、基準の多くが、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。基準を満たしているかどうかの判断は、その基本的な観点の分析状況を総合した上で、基準ごとに行った。

④ 基準を満たしているもののうち、その取組が優れていると判断される場合や、基準を満たしているが、改善の必要が認められる場合等には、その旨の指摘も行った。

⑤ 高等専門学校全体として、すべての基準を満たしている場合に、機関としての高等専門学校が機構の高等専門学校評価基準を満たしていると認め、その旨を公表した。（一つでも満たしていない基準がある場合には、高等専門学校全体として高等専門学校評価基準を満たしていないものとして、その旨を公表することとしている。）

4. スケジュール

(1) 平成25年6月に、平成26年度に機構が実施する認証評価に申請を予定している高等専門学校のうち、説明を希望する高等専門学校の関係者に対し、高等専門学校機関別認証評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、当該高等専門学校の自己評価担当者に対し、自己評価書の記載等について研修会を実施した。

(2) 平成25年7月から9月にかけて、以下の15高等専門学校から申請を受け、評価を実施することとなった。

○ 国立高等専門学校（14 高等専門学校）

函館工業高等専門学校、苫小牧工業高等専門学校、秋田工業高等専門学校、福島工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、群馬工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校、石川工業高等専門学校、豊田工業高等専門学校、米子工業高等専門学校、津山工業高等専門学校、大島商船高等専門学校、新居浜工業高等専門学校、大分工業高等専門学校

○ 私立高等専門学校（1 高等専門学校）

近畿大学工業高等専門学校

(3) 平成 26 年 6 月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、高等専門学校評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。

(4) 平成 26 年 6 月末に、対象校から自己評価書の提出を受けた。

(5) 対象校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは次のとおりであった。

26 年 7 月	書面調査の実施
8 月	運営小委員会の開催(各評価部会間の横断的な事項の調整) 評価部会、財務専門部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
9～11 月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象校の状況を調査）
12 月	運営小委員会、評価部会、財務専門部会の開催（評価結果（原案）の作成）

(6) これらの調査結果を踏まえ、平成 27 年 1 月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。

(7) 評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成 27 年 3 月の評価委員会で審議を経て最終的な評価結果を確定した。

5. 評価結果

平成 26 年度に認証評価を実施した 15 高等専門学校のすべてが、機構の定める高等専門学校評価基準を満たしているとの評価結果となった。

機構はこの評価結果を平成 27 年 3 月 26 日付で、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※ 高等専門学校評価基準（機関別認証評価）は機構ウェブサイトを参照のこと。

http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kousen/index.html

Ⅱ 平成 26 年度実施の認証評価に関する検証

1. 検証の実施方法

(1) アンケート調査の実施

平成 26 年度実施の認証評価の対象校及び評価担当者に対し、記名選択式回答（5 段階・2 段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

アンケート調査項目は次のとおりである。

[対象校]

1. 評価基準及び観点について
2. 評価の方法及び内容について
 - (1) 自己評価について
 - (2) 訪問調査等について
 - (3) 意見の申立てについて
3. 評価の作業量、スケジュール等について
 - (1) 評価に費やした作業量について
 - (2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて
 - (3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて
 - (4) 評価のスケジュールについて
4. 説明会・研修会等について
5. 評価結果（評価報告書）について
 - (1) 評価報告書の内容等について
 - (2) 自己評価書及び評価報告書の公表について
 - (3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について
6. 評価を受けたことによる効果・影響について
 - (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について
 - (2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について
7. 評価結果の活用について
8. 評価の実施体制について
9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について
10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて
11. その他

[評価担当者]

1. 評価基準及び観点について

2. 評価の方法及び内容・結果について
 - (1) 自己評価書について
 - (2) 書面調査について
 - (3) 訪問調査について
 - (4) 評価結果について
3. 研修について
4. 評価の作業量、スケジュール等について
 - (1) 評価に費やした作業量について
 - (2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて
 - (3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて
 - (4) 評価作業にかかった時間数について
5. 評価部会等の運営について
6. 評価全般について
7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

(2) アンケート調査結果等の検証

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査項目から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

- (1) 評価基準及び観点について
- (2) 説明会・研修会について
- (3) 自己評価書について
- (4) 書面調査・訪問調査について
- (5) 評価結果（評価報告書）について
- (6) 評価の効果・影響について
- (7) 評価の作業量等について
- (8) 前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善について
- (9) 評価についての全般的な意見・感想について

なお、報告書の本文には、アンケート調査結果のうち主なものを掲載しており、参考資料にはすべての調査結果を掲載している。

※アンケート調査に係る補足事項

1. アンケート用紙配付日程

	平成 26 年度
対象校	平成 27 年 3 月 27 日
評価担当者	平成 26 年 12 月 26 日

2. 平成 26 年度アンケートの回収状況

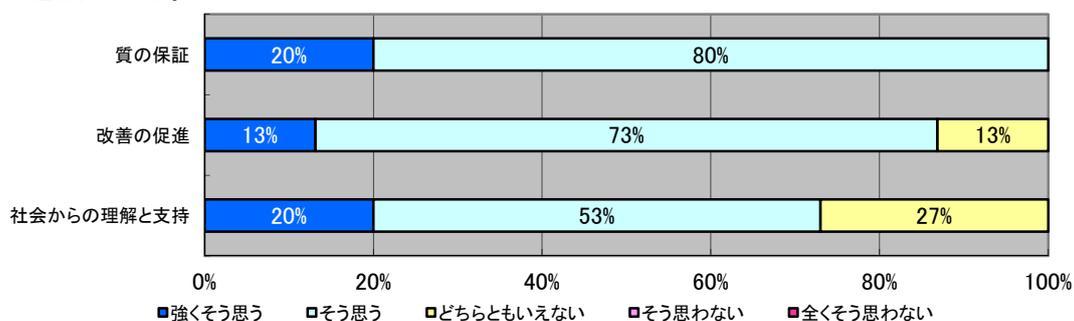
	回答数	回収率
対象校	15 校中 15 校	100%
評価担当者	22 人中 21 人	95%

2. 項目別の検証

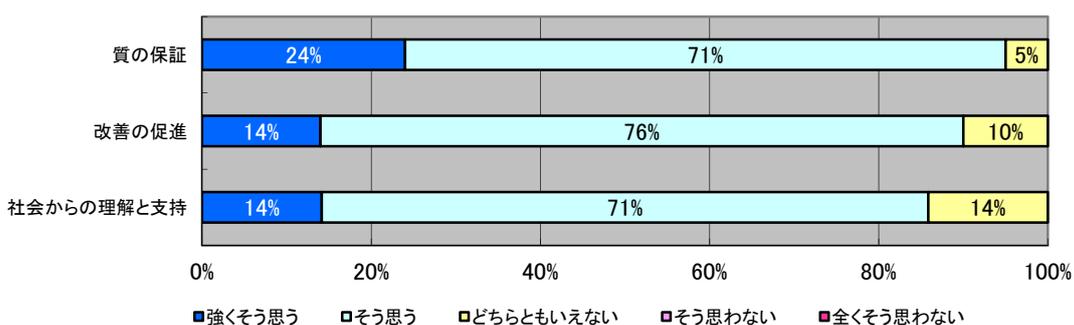
(1) 評価基準及び観点について

評価基準及び観点の構成や内容が、「教育研究活動等の質を保証するために適切であった」(機関 1-①、評 1-①*) か、「教育研究活動等の改善を促進するために適切であった」(機関 1-②、評 1-②) か及び「教育研究活動等について社会から理解と支持を得られるために適切であった」(機関 1-③、評 1-③) について、対象校及び評価者に質問した結果を、それぞれ、図 1 (a)、(b)に示す。

評価担当者においては、肯定的な回答(「そう思う」「強くそう思う」)の合計、以下同じ)が 90%前後とおおむね適切であるとの結果となった。一方、対象校においては、社会からの理解と支持においてはおよそ 70%程度となっており、更なる工夫・努力が必要である。



(a) 【対象校】評価の目的に対する適切性(評価基準等の構成・内容) (N=15)



(b) 【評価担当者】評価の目的に対する適切性(評価基準等の構成・内容) (N=21)

図 1 評価の目的に対する適切性

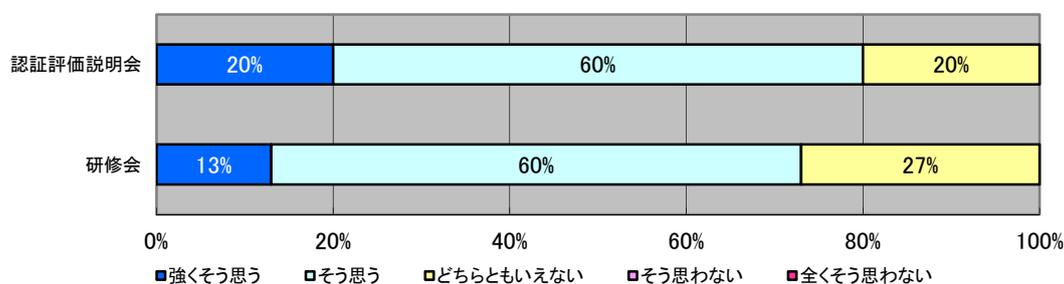
※「機関〇—〇」: 参考資料「認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】」における設問番号に対応
「評〇—〇」: 参考資料「認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】」における設問番号に対応
回答率については、小数点以下四捨五入のため合計が 100%にならないものもある。また、未回答は除いている。

(2) 説明会・研修会について

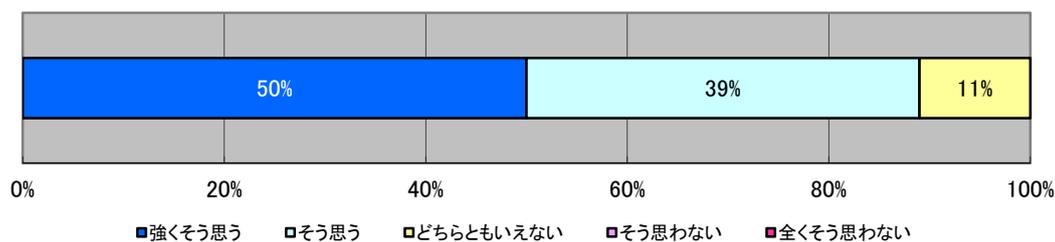
対象校に対して行った「認証評価説明会の内容は役立った」か（機関 4-③）、「自己評価担当者に対する説明会の内容は役立った」か（機関 4-⑥）および評価担当者に対して行った「研修の内容は役立った」か（評 3-③）について質問した結果をそれぞれ図 2(a) (b)に示す。

対象校においては、認証評価説明会、研修会ともに 80%前後が肯定的な回答となった。評価担当者においても、およそ 90%が肯定的な回答であり、説明会、研修会についてはおおむね適切であったと考えられる。

特に、説明会等において配布された資料は役に立ったというコメントが寄せられた。



(a) 【対象校】 認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会の有効性 (N=15)



(b) 【評価担当者】 評価担当者に対する研修の有効性 (N=18)

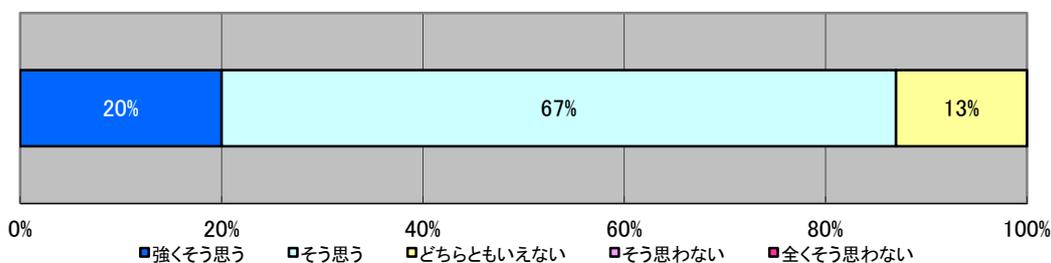
図 2 研修会・説明会の有効性

(3) 自己評価書について

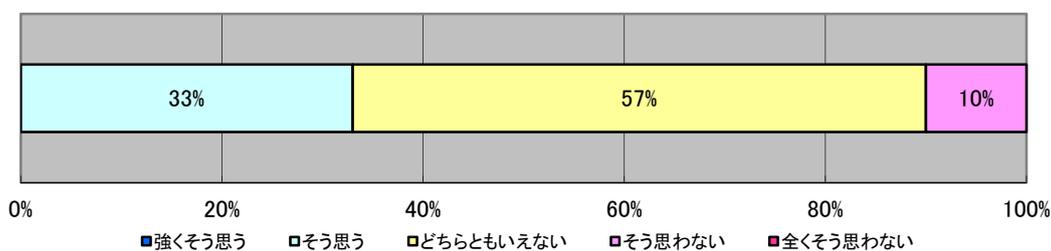
対象校に対し「自己評価書の完成度は満足できるものであった」か（機関 2-1-⑤）および評価担当者に対し、「対象校の自己評価書は理解しやすかった」か（評 2-1-①）について質問した結果が図 3(a) (b) となる。

自己評価書について、対象校からの回答では完成度の高い自己評価書が作成されたという回答が 90%程度を占めている。その一方で、評価担当者からは 10%程度であるが、否定的な回答も寄せられており、肯定的な回答は 30%程度である。

自己評価書の理解のしやすさも評価作業等に影響を及ぼすため、自己評価書の書き方については説明会や事前相談などにおいて対象校の理解を深める工夫を行う必要がある。



(a) 【対象校】 自己評価書の完成度に対する満足度 (N=15)



(b) 【評価担当者】 対象校の自己評価書の理解のしやすさ (N=21)

図 3 自己評価書について

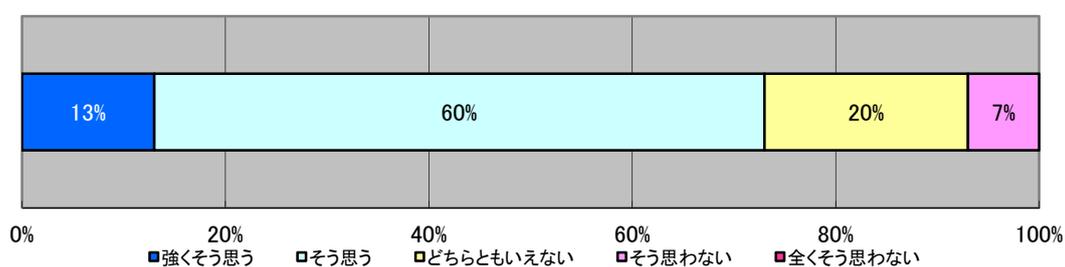
「自己評価書に必要な根拠資料が引用・添付されていた」か（評 2-1-③）について、評価担当者からの肯定的な回答はおよそ 40%程度と必ずしも多いとはいえ、否定的な回答も若干見受けられる。今後も引き続き、対象校に対し説明会等で添付資料についての理解を深める工夫が必要である。

(4) 書面調査・訪問調査について

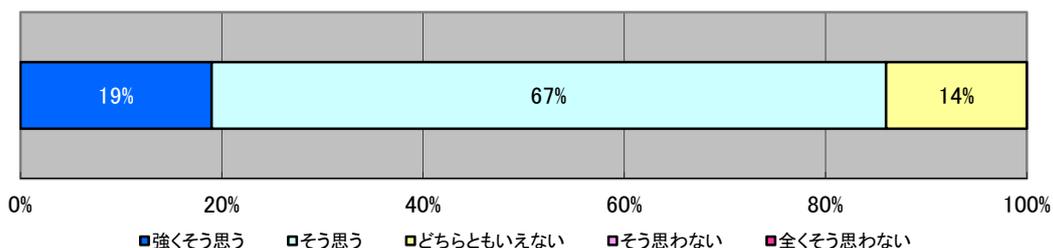
『書面調査による分析状況』の内容は適切であったか(機関 2-2-①)及び「書面調査票等の様式は記入しやすかった」か(評 2-2-①)について質問した結果を図 4(a)(b)に示す。

対象校においては、若干ではあるが否定的な回答がみられるものの、70%程度が「書面調査による分析状況」は適切であったとの回答であった。

書面調査の様式については、80%以上が肯定的な回答であり、適切であるという結果となった。



(a) 【対象校】「書面調査による分析状況」の適切性 (N=15)



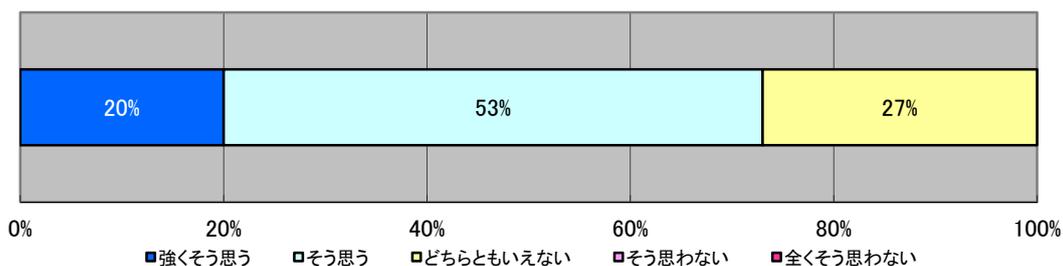
(b) 【評価担当者】書面調査等の様式の適切性 (N=21)

図 4 「書面調査による分析状況」の適切性等について

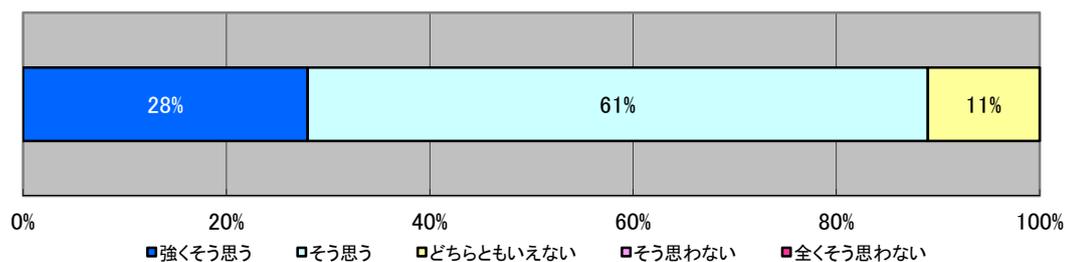
対象校と評価担当者それぞれに「教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた」か(機関 2-3-⑥)(評 2-2-⑦)について質問した結果が図 5(a) (b)である。

評価担当者では 90%程度が肯定的な回答であるのに対し、対象校では 70%程度と少ない印象であり、両者の回答に若干ずれが生じているように思われる。

対象校・評価担当者間相互における理解を進めるため、意見交換の際は更なる工夫を行う必要があると思われる。



(a) 【対象校】 訪問調査時の意見交換の相互理解のための有効性 (N=15)



(b) 【評価担当者】 訪問調査時の意見交換の相互理解のための有効性 (N=18)

図 5 訪問調査時の意見交換の相互理解のための有効性

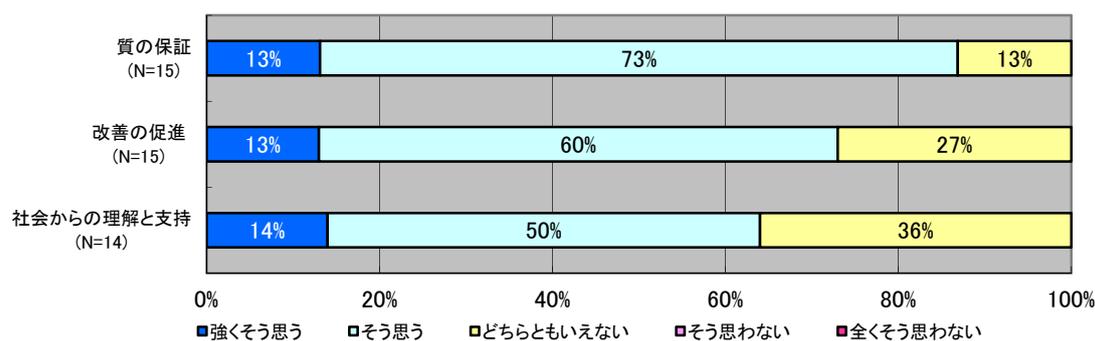
(5) 評価結果（評価報告書）について

評価報告書の内容について「質の保証をするために十分」であったか（機関 5-1-①）、「教育改善活動等の改善に役立」ったか（機関 5-1-②）、「社会からの理解と支持を得られるものであったか（機関 5-1-③）について質問した結果を図 6(a)に示している。

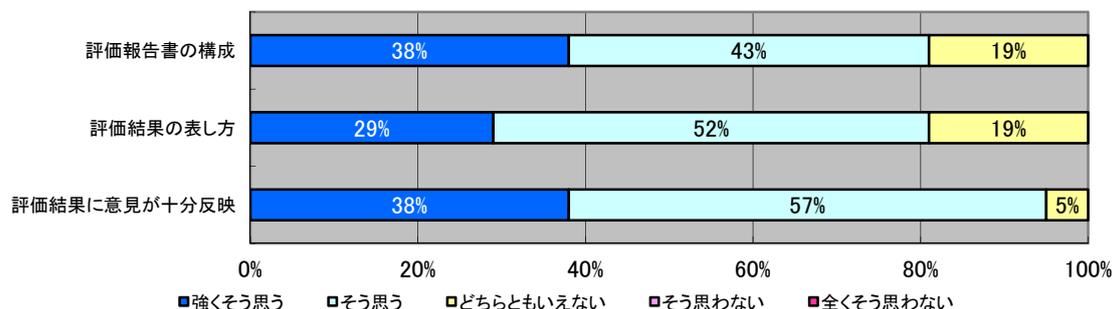
また、評価担当者に対し、評価報告書の構成（評 5-4-④）、評価結果の表し方（評 5-4-②）評価結果に意見が十分反映されたか（評 5-4-①）について質問した結果を図 5(b)に示している。

対象校においては、若干の差はあるものの、それぞれおおむね有効であるとの回答である。ただし、社会からの理解と支持の項目については、他の質問項目でも同じように低評価となっているため、評価結果の表し方、広報についても改善を行う必要があると思われる。

評価担当者においては、評価結果報告書についておおむね妥当であるとの結果となった。特に、評価結果に意見が十分反映されたとの項目については肯定的であり、おおむね適切であったと思われる。



(a) 【対象校】 評価の目的に対する有効性(評価報告書の内容)



(b) 【評価担当者】 評価結果の妥当性 (N=21)

図 6 評価結果の有効性・妥当性について

評価結果について「マスメディア等から適切な報道がなされた」か（機関 5-3-①）
についての質問の結果が図7である。

マスメディアの報道の適切性については、肯定的な回答は全く見られず、3分の1が
否定的な回答となっている。各対象校のみでも努力の限度はあるため、機構でも、高
等専門学校への認証評価について積極的に情報発信等を行っていく必要がある。

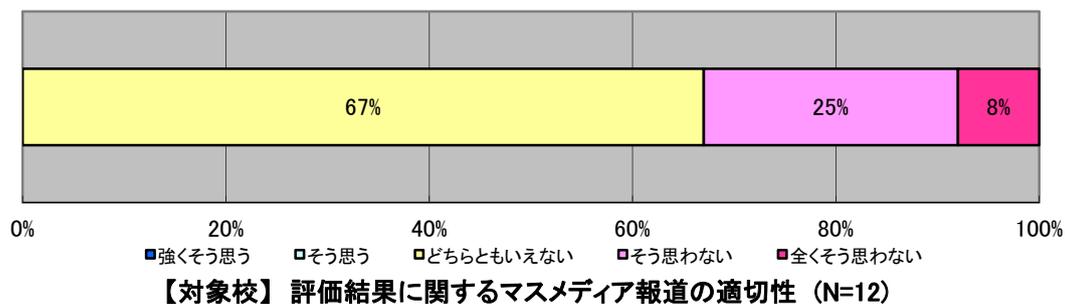
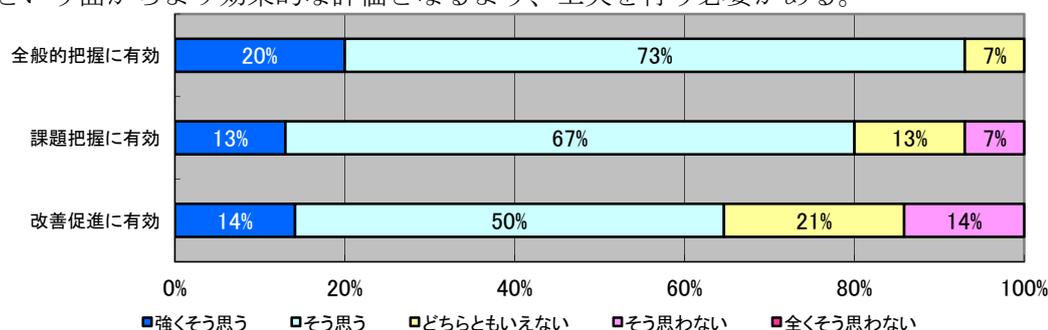


図7 マスメディアからの適切な報道について

(6) 評価の効果・影響について

対象校が評価を受けたことによる効果・影響について、対象校の教育研究活動等について、「全般的に把握する」ために有効か（機関 6-2-①）、「今後の課題を把握する」のに有効か（機関 6-2-②）及び「改善を促進する」のに有効か（機関 6-2-⑤）を質問した結果を表したものが図 8 である。

全般的把握や課題の把握については一部否定的な回答があるものの、80%以上が肯定的であり、有効であると捉えられている。改善の促進に有効かどうかについては、肯定的な回答は 60%となっており、否定的な回答も他に比べると若干多い。改善の促進という面からより効果的な評価となるよう、工夫を行う必要がある。

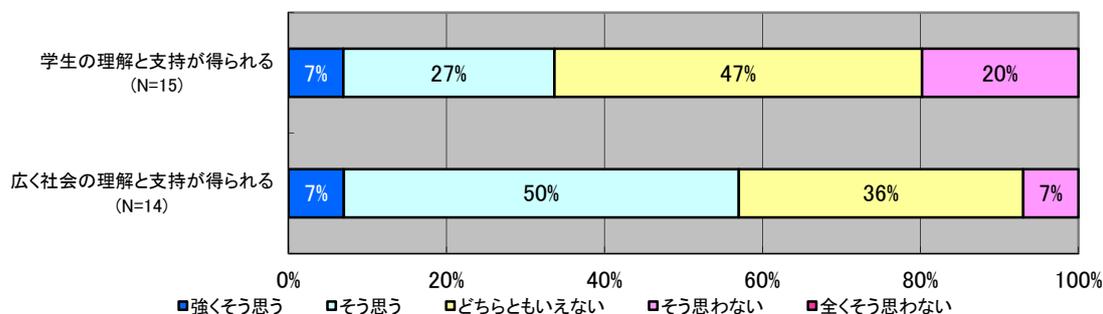


【対象校】 機構の評価を受けたことによる効果・影響(教育研究活動等) (N=15)

図 8 機構の評価の効果・影響(教育研究活動)

下記の図 9 については同じく対象校に対して、評価を受けた結果「学生の理解と支持が得られ」たか(機関 6-2-⑬)及び「広く社会の理解と支持が得られ」たか(機関 6-2-⑭)について質問した結果である。

学生、社会からの支持においては特に学生からの支持を得るのに有効ととらえた回答が少ないという結果となった。特に「どちらとも言えない」「そう思わない」が多くを占めていることから、対象校における広報や、今後の機構の取組の一層の改善が望まれる。



【対象校】 機構の評価を受けたことによる効果・影響(学生・社会からの支持)

図 9 機構の評価の効果・影響(学生・社会からの支持)

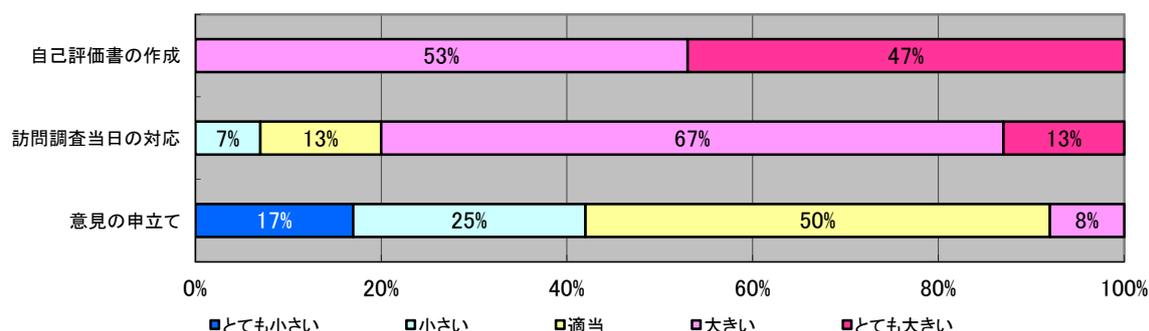
自己評価の実施及び機構の評価結果を踏まえた改善・向上への取組は、各対象校で着実に行われている。（具体的な改善事例は「3（1）認証評価結果を受けた対象校の改善取組例」に挙げる。）

(7) 評価の作業量等について

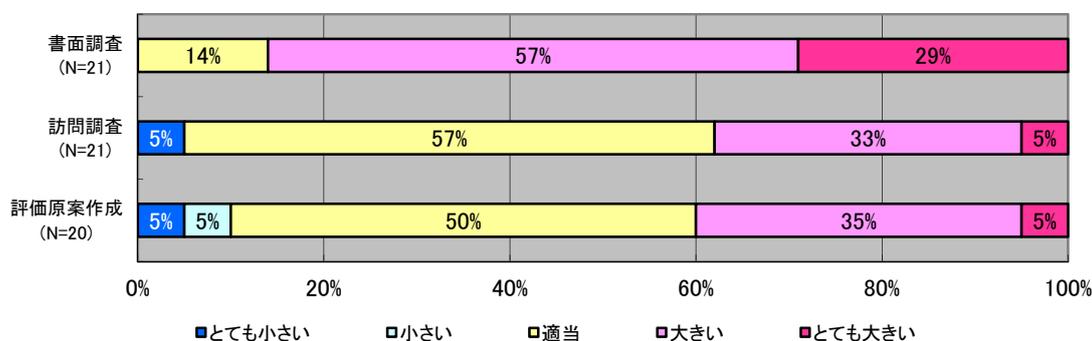
評価に費やした対象校の作業量の大きさについて、「自己評価書の作成」(機関 3-1-①)「訪問調査当日の対応」(機関 3-1-④)「意見の申立て」(3-1-⑤)の点について質問した結果を図 10(a)に、評価担当者の作業量の大きさについて「書面調査」(評 4-1-①)、「訪問調査」(評 4-1-②)、「評価結果(原案)の作成」(評 4-1-③)の点について質問した結果を図 10(b)に表した。

自己評価書の作成、訪問調査当日の対応については多くの回答が作業量が大きい又はとても大きいという結果となった。特に自己評価書については、全ての回答が作業量は大きいまたはとても大きいとなっており、これは例年も同じ状況となっているため、作業負担の軽減に対応するための検討をさらに行う必要がある。

評価担当者についても、書面調査ではほぼすべての回答が「大きい」または「とても大きい」という回答であった。これについては、対象校から提出される自己評価書の理解のしやすさからも影響があると思われる。機構としては評価作業の効率化だけでなく、対象校に対し自己評価書の記載について理解しやすい記述となるよう説明を行うなどの対策が必要と思われる。



(a) 【対象校】 評価に費やした作業量 (N=15)



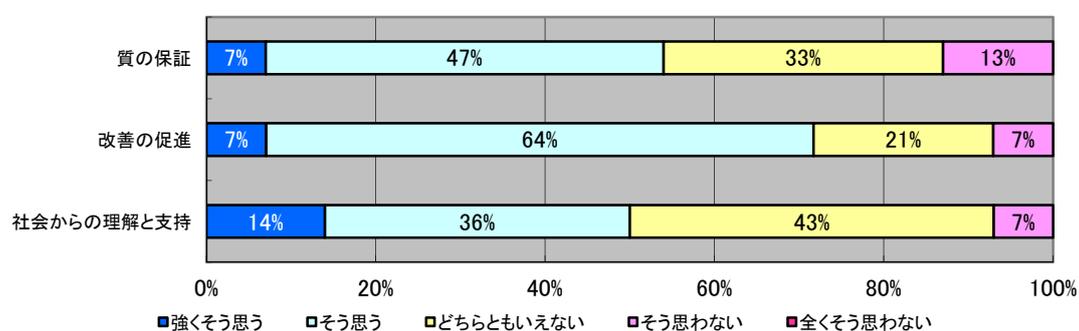
(b) 【評価担当者】 評価に費やした作業量

図 10 評価に費やした作業量について

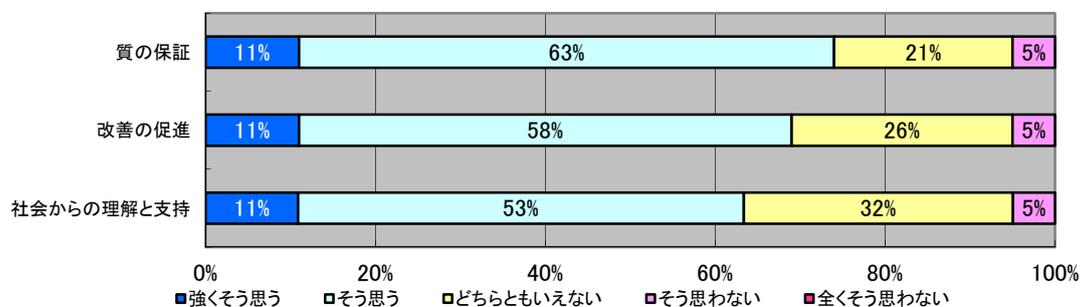
評価の目的に対する有効性について、対象校及び評価担当者における評価作業に費やした労力は、「質の保証」(機関 3-3-①)(評 4-3-①)「改善の促進」(機関 3-3-②)(評 4-3-②)「社会からの理解と支持」(機関 3-3-③)(評 4-3-③)という評価の目的に照らして見合うものであったかについてそれぞれ質問した結果を図 11(a)(b)に示す。

対象校においては改善の促進についてはおおむね肯定的な回答であったが、質の保証、社会からの理解と支持については肯定的な回答は 50%程度となり、有効であると捉えられている回答は少なくなっている。

評価担当者においては、70%前後が肯定的であり、おおむね目的に見合うものであったと考えられる。



(a) 【対象校】 評価の目的に対する有効性(評価作業に費やした労力) (N=15)



(b) 【評価担当者】 評価の目的に対する有効性(評価作業に費やした労力) (N=19)

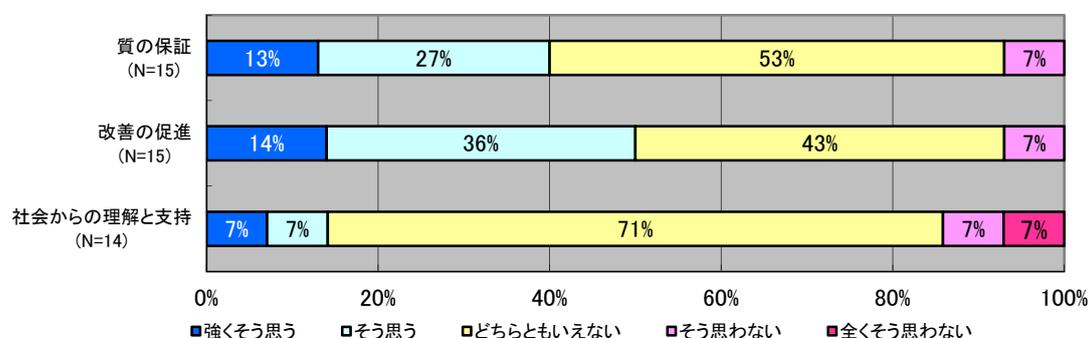
図 11 評価の目的の有効性

(8) 前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善について

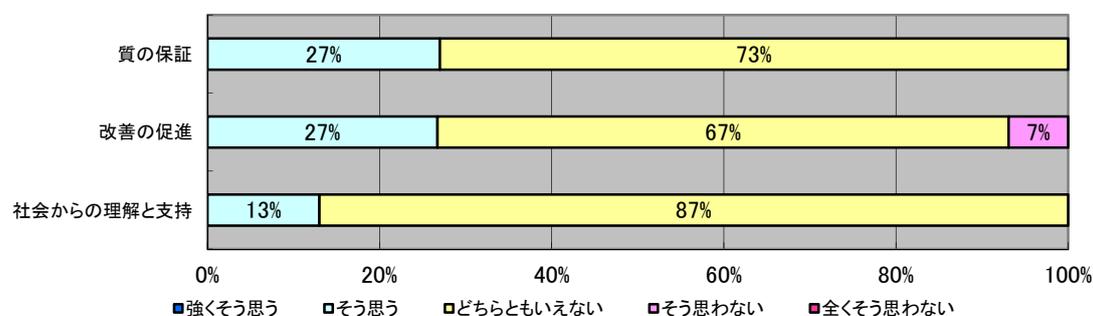
前回の評価を受けたことによる効果・影響について、対象校及び評価担当者に対し教育研究活動等の「質の保証」(機関9-①)(評7-①)「改善の促進」(機関9-②)(評7-②)「社会からの理解と支持」(機関9-③)(評7-③)についてそれぞれ質問した結果をまとめたものが図12(a)(b)である。

対象校における回答では、質の保証と改善の促進において40～50%程度で有効であったと回答があった。社会からの理解と支持においては肯定的な回答は20%未満となっており、他の質問項目でも同じように一段と低い評価となっている。

「どちらともいえない」がそれぞれ多いという結果になっているのは多くの評価担当者や対象校の担当者等が前回受審時から交代されているためと考えられるが、今後、長期的な評価の効果・影響について把握、検証していく必要がある。



(a) 【対象校】 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響

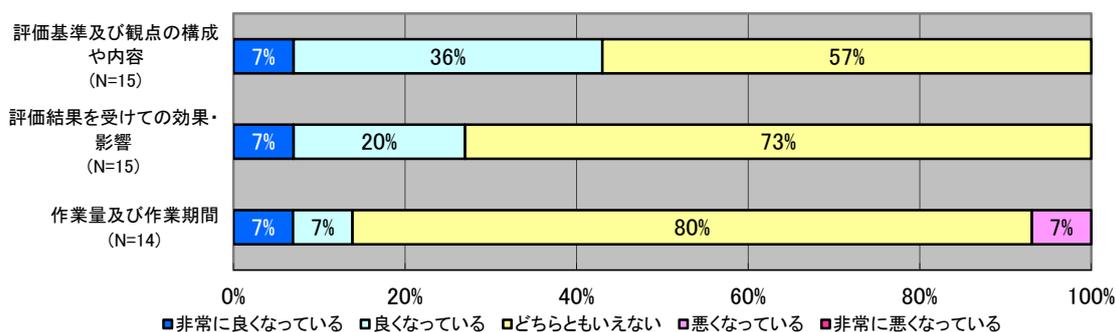


(b) 【評価担当者】 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響 (N=15)

図12 前回受審の効果・影響

前回と比較した当機構の認証評価プロセスの改善について「評価基準及び観点の構成や内容は適切なものとなった」か(機関 10-①)、「評価結果を受けたことによる効果・影響はより大きなものとなった」か(機関 10-②)、「評価に費やした作業量及び作業期間はより適当なものとなった」か(機関 10-④)について対象校に質問した結果を図 13 に表した。

前回と比較した当機構の認証評価プロセスの改善について、対象校が前回の評価を受けた時と比較して、肯定的な回答は必ずしも多いとはいえないため、今後も評価システムの改善に努める必要がある。



【対象校】 前回と比較した当機構の認証評価プロセスの改善

図 13 前回と比較しての評価プロセスの改善状況

(9) 評価についての全般的な意見・感想について

(1)～(8)に挙げたもののほか、評価全般について、対象校及び評価担当者から、主に次のような意見・感想があった。

・対象校からの意見・感想について

機構の認証評価を受けた感想として、評価結果は期待通りであったという意見が多く寄せられた。今後改善すべき点が明確になり改善に役立つ、学内で役職教職員の目標達成の意識が向上したなど肯定的な感想が寄せられた。一方で、「認定専攻科の審査」「特例適用専攻科の審査」や他機関の評価との関連・補完により受審校の負担軽減につなげてほしいとの意見もあった。

・評価担当者からの意見・感想について

機構の評価に携わったことについて、勉強になった、貴重な経験ができた、評価担当者としての経験を所属組織の運営に活かしたいとする感想がある一方で、評価によって対象校の負担が大きく、教育・研究活動等に影響を及ぼしていることを危惧する意見も寄せられた。

3. 対象校及び機構の取組

(1) 認証評価結果を受けた対象校の改善取組例（代表的なものを抽出）

- 複数年度にわたって同一試験問題が出題されていることに対し、教務委員会・専攻科教務委員会にて再発防止を検討し教員に働きかけることとした。
- 「外国語の能力」の達成度を向上させるため、平成27年度から教科「英語」の体系的カリキュラムを構成、海外留学の機会を付与することになっている。
- 教育研究委員会実施の授業改善アンケート等を基にした教育の状況に関する自己点検・評価結果を公表するとともにそのプロセスについて外部評価を実施していく。
- 準学士課程4～5年において、倫理力及びコミュニケーション力の育成につながる科目を選択必修化するなど学習・教育目標の達成状況を把握評価しやすくするためのカリキュラム改訂を予定している。
- 教育組織の改編(改組)により、課題を考慮したシステムの見直しと同時に学校全体の評価項目及びその基準を明瞭化する予定である。

(2) アンケートで寄せられた意見と機構の取組例（代表的なものを抽出）

【意見】

(対象校)

- 訪問調査結果説明後に各審査員からコメントをいただく機会があり、アドバイスや感想を具体的にコメントいただいたがこうした機会は次回以降の認証評価でも引き続き設けていただきたい。
- 卒業生への面談がややセレモニー的な感じとなっているように感じる。面談時間が短く、ゆっくり時間を取って卒業生の意見・考えを聞いてほしかった。
- 社会からの理解と支持に関しては、膨大な量の資料を見直し、わかりやすくまとめることに労力を傾ける必要があると考える。

(評価担当者)

- 補足資料はやはりファイルで欲しい。格段に調査時間が節約できる。
- 機構からの照会に対し対象校から適切な回答が得られない場合があった。再度照会する余裕を持たせるなどして訪問調査が円滑に進むようにしていただけると助かる。

【取組例】

寄せられた意見の一部に対して、以下の取組を行っている。

- 平成 26 年度実施分から「優れた点」・「改善を要する点」について取りまとめた一覧表をウェブサイトにおいて公表を開始した。
- 自己評価書提出前の事前相談を受け付け、共通認識を深めるとともに、対象校に対して必要な資料・データについて改めて依頼している。

参 考 资 料

参考資料 目次

1	認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答） 【対象校】	25
2	認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答） 【評価担当者】	31
3	認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述） 【対象校】	35
4	認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述） 【評価担当者】	50
5	認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】 （高等専門学校用）	64
6	認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】 （高等専門学校用）	88

※ なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の高等専門学校や個人等が明らかに特定されるものについては、特定できないような表現に改めた上で掲載した。）

平成26年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】
【高等専門学校】

1. 評価基準及び観点について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関1-	① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	3	12	0	0	0	15	4.20	0
		20%	80%	0%	0%	0%	100%		
機関1-	② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	2	11	2	0	0	15	4.00	0
		13%	73%	13%	0%	0%	100%		
機関1-	③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	3	8	4	0	0	15	3.93	0
		20%	53%	27%	0%	0%	100%		
機関1-	④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	3	11	0	0	0	14	4.21	0
		21%	79%	0%	0%	0%	100%		

【2:ある 1:ない】

		2	1	計	平均	未回答
機関1-	⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった	3	12	15	1.20	0
		20%	80%	100%		
機関1-	⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	0	15	15	1.00	0
		0%	100%	100%		

2. 評価の方法及び内容について

(1) 自己評価について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-	① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた	3	10	1	1	0	15	4.00	0
		20%	67%	7%	7%	0%	100%		
機関2-(1)-	② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた	0	4	9	2	0	15	3.13	0
		0%	27%	60%	13%	0%	100%		

【2:迷った 1:迷っていない】

		2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-	③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	7	8	15	1.47	0
		47%	53%	100%		

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-	④ 対象校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた	3	7	3	0	0	13	4.00	0
		23%	54%	23%	0%	0%	100%		
機関2-(1)-	⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった	3	10	2	0	0	15	4.07	0
		20%	67%	13%	0%	0%	100%		
機関2-(1)-	⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった	3	5	4	3	0	15	3.53	0
		20%	33%	27%	20%	0%	100%		

【2:参考にした 1:参考にしなかった】

		2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-	⑦ 自己評価書の作成にあたって、すでに機構の認証評価を受けた他高等専門学校を参考にした	13	2	15	1.87	0
		87%	13%	100%		

(2) 訪問調査等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(2)	① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	2	9	3	1	0	15	3.80	0
		13%	60%	20%	7%	0%	100%		
機関2-(2)	② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	3	9	2	1	0	15	3.93	0
		20%	60%	13%	7%	0%	100%		
機関2-(2)	③ 訪問調査時に機構の評価担当者(事務担当者を除く。以下同様。)が質問した内容は適切であった	4	8	2	1	0	15	4.00	0
		27%	53%	13%	7%	0%	100%		
機関2-(2)	④ 訪問調査の実施内容として、大学関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった	6	8	1	0	0	15	4.33	0
		40%	53%	7%	0%	0%	100%		
機関2-(2)	⑤ 訪問調査の実施内容(大学関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)の方法は適切であった	5	10	0	0	0	15	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)	⑥ 訪問調査の実施内容(大学関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)に係る時間配分は適切であった	5	8	1	1	0	15	4.13	0
		33%	53%	7%	7%	0%	100%		
機関2-(2)	⑦ 訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	3	8	4	0	0	15	3.93	0
		20%	53%	27%	0%	0%	100%		
機関2-(2)	⑧ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった	4	8	2	1	0	15	4.00	0
		27%	53%	13%	7%	0%	100%		
機関2-(2)	⑨ 訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う	4	7	3	0	0	14	4.07	0
		29%	50%	21%	0%	0%	100%		

(3) 意見の申立てについて

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(3)	① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった	5	9	1	0	0	15	4.27	0
		33%	60%	7%	0%	0%	100%		
機関2-(3)	② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載するとしたことは適切であった	4	9	2	0	0	15	4.13	0
		27%	60%	13%	0%	0%	100%		
機関2-(3)	③ 対象校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった	0	0	0	0	0	0	#####	0
		####	####	####	####	####	####		

3. 評価の作業量、スケジュール等について

(1) 評価に費やした作業量について

【5: とても大きい～3: 適当～1: とても小さい】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(1)	① 自己評価書の作成	7	8	0	0	0	15	4.47	0
		47%	53%	0%	0%	0%	100%		
機関3-(1)	② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	3	10	1	1	0	15	4.00	0
		20%	67%	7%	7%	0%	100%		
機関3-(1)	③ 訪問調査のための事前準備	2	9	4	0	0	15	3.87	0
		13%	60%	27%	0%	0%	100%		
機関3-(1)	④ 訪問調査当日の対応	2	10	2	1	0	15	3.87	0
		13%	67%	13%	7%	0%	100%		
機関3-(1)	⑤ 意見の申立て	0	1	6	3	2	12	2.50	0
		0%	8%	50%	25%	17%	100%		

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

【5: とても長い～3: 適当～1: とても短い】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(2)	① 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	0	4	5	6	0	15	2.87	0
		0%	27%	33%	40%	0%	100%		
機関3-(2)	② 訪問調査のための事前準備	0	3	11	1	0	15	3.13	0
		0%	20%	73%	7%	0%	100%		
機関3-(2)	③ 訪問調査当日の対応	0	3	7	4	1	15	2.80	0
		0%	20%	47%	27%	7%	100%		
機関3-(2)	④ 意見の申立て	0	0	9	1	1	11	2.73	0
		0%	0%	82%	9%	9%	100%		

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(3)	① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	1	7	5	2	0	15	3.47	0
		7%	47%	33%	13%	0%	100%		
機関3-(3)	② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった	1	9	3	1	0	14	3.71	0
		7%	64%	21%	7%	0%	100%		
機関3-(3)	③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るといった目的に見合うものであった	2	5	6	1	0	14	3.57	0
		14%	36%	43%	7%	0%	100%		

(4) 評価のスケジュールについて

【2: 適当 1: 適当でない】

		2	1	計	平均	未回答
機関3-(4)	① 自己評価書の提出時期(6月末)は適当であった	15	0	15	2.00	0
		100%	0%	100%		
機関3-(4)	② 訪問調査の実施時期(10月上旬～12月中旬)は適当であった	15	0	15	2.00	0
		100%	0%	100%		

4. 説明会・研修会等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関4-	① 説明会の配付資料は理解しやすかった	0	13	2	0	0	15	3.87	0
		0%	87%	13%	0%	0%	100%		
機関4-	② 説明会の内容は理解しやすかった	0	12	3	0	0	15	3.80	0
		0%	80%	20%	0%	0%	100%		
機関4-	③ 説明会の内容は役立つ	3	9	3	0	0	15	4.00	0
		20%	60%	20%	0%	0%	100%		
機関4-	④ 自己評価担当者等に対する研修会の配布資料は理解しやすかった	0	12	3	0	0	15	3.80	0
		0%	80%	20%	0%	0%	100%		
機関4-	⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった	0	12	3	0	0	15	3.80	0
		0%	80%	20%	0%	0%	100%		
機関4-	⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立つ	2	9	4	0	0	15	3.87	0
		13%	60%	27%	0%	0%	100%		
機関4-	⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立つ	4	9	2	0	0	15	4.13	0
		27%	60%	13%	0%	0%	100%		
機関4-	⑧ 機構が行った訪問説明は役立つ	4	6	0	0	0	10	4.40	0
		40%	60%	0%	0%	0%	100%		
機関4-	⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応(質問等に対する対応)は適切であった	4	10	1	0	0	15	4.20	0
		27%	67%	7%	0%	0%	100%		

5. 評価結果(評価報告書)について

(1) 評価報告書の内容等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関5-(1)	① 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった	2	11	2	0	0	15	4.00	0
		13%	73%	13%	0%	0%	100%		
機関5-(1)	② 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	2	9	4	0	0	15	3.87	0
		13%	60%	27%	0%	0%	100%		
機関5-(1)	③ 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった	2	7	5	0	0	14	3.79	0
		14%	50%	36%	0%	0%	100%		
機関5-(1)	④ 評価報告書の内容は、対象校の目的に照らし適切なものであった	4	10	1	0	0	15	4.20	0
		27%	67%	7%	0%	0%	100%		
機関5-(1)	⑤ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	3	12	0	0	0	15	4.20	0
		20%	80%	0%	0%	0%	100%		
機関5-(1)	⑥ 評価報告書の内容は、対象校の規模等(資源・制度など)を考慮したものであった	3	9	3	0	0	15	4.00	0
		20%	60%	20%	0%	0%	100%		
機関5-(1)	⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	2	6	5	2	0	15	3.53	0
		13%	40%	33%	13%	0%	100%		
機関5-(1)	⑧ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった	4	8	3	0	0	15	4.07	0
		27%	53%	20%	0%	0%	100%		
機関5-(1)	⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった	3	10	2	0	0	15	4.07	0
		20%	67%	13%	0%	0%	100%		

(2) 自己評価書及び評価報告書の公表について

		【2:している 1:していない】				
		2	1	計	平均	未回答
機関5-(2)	① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している	11	4	15	1.73	0
		73%	27%	100%		
機関5-(2)	② 評価報告書をウェブサイトなどで公表している	13	2	15	1.87	0
		87%	13%	100%		

(3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について

		【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全く思わない】							
		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関5-(3)	① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた	0	0	8	3	1	12	2.58	0
		0%	0%	67%	25%	8%	100%		

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

		【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全く思わない】							
		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関6-(1)	① 対象校の教育研究活動等について全般的に把握することができた	3	12	0	0	0	15	4.20	0
		20%	80%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	② 対象校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた	2	10	3	0	0	15	3.93	0
		13%	67%	20%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した	0	7	6	2	0	15	3.33	0
		0%	47%	40%	13%	0%	100%		
機関6-(1)	④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した	0	6	6	3	0	15	3.20	0
		0%	40%	40%	20%	0%	100%		
機関6-(1)	⑤ 対象校の教育研究活動等の改善を促進した	0	7	4	3	0	14	3.29	0
		0%	50%	29%	21%	0%	100%		
機関6-(1)	⑥ 対象校の将来計画の策定に役立った	0	7	7	0	1	15	3.33	0
		0%	47%	47%	0%	7%	100%		
機関6-(1)	⑦ 対象校のマネジメントの改善を促進した	0	7	7	1	0	15	3.40	0
		0%	47%	47%	7%	0%	100%		
機関6-(1)	⑧ 対象校の個性的な取組を促進した	0	8	5	2	0	15	3.40	0
		0%	53%	33%	13%	0%	100%		
機関6-(1)	⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した	0	6	7	2	0	15	3.27	0
		0%	40%	47%	13%	0%	100%		
機関6-(1)	⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した	0	9	6	0	0	15	3.60	0
		0%	60%	40%	0%	0%	100%		

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関6-(2)	① 対象校の教育研究活動等について全般的に把握することができる	3	11	1	0	0	15	4.13	0
		20%	73%	7%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	② 対象校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる	2	10	2	1	0	15	3.87	0
		13%	67%	13%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する	2	6	5	2	0	15	3.53	0
		13%	40%	33%	13%	0%	100%		
機関6-(2)	④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する	2	2	8	3	0	15	3.20	0
		13%	13%	53%	20%	0%	100%		
機関6-(2)	⑤ 対象校の教育研究活動等の改善を促進する	2	7	3	2	0	14	3.64	0
		14%	50%	21%	14%	0%	100%		
機関6-(2)	⑥ 対象校の将来計画の策定に役立つ	3	4	7	1	0	15	3.60	0
		20%	27%	47%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑦ 対象校のマネジメントの改善を促進する	2	7	4	1	0	14	3.71	0
		14%	50%	29%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑧ 対象校の個人的な取組を促進する	2	7	4	2	0	15	3.60	0
		13%	47%	27%	13%	0%	100%		
機関6-(2)	⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する	2	5	6	2	0	15	3.47	0
		13%	33%	40%	13%	0%	100%		
機関6-(2)	⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する	2	4	6	3	0	15	3.33	0
		13%	27%	40%	20%	0%	100%		
機関6-(2)	⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する	2	7	4	2	0	15	3.60	0
		13%	47%	27%	13%	0%	100%		
機関6-(2)	⑫ 対象校の教育研究活動等の質が保証される	2	11	1	1	0	15	3.93	0
		13%	73%	7%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑬ 学生(今後入学する学生を含む)の理解と支持が得られる	1	4	7	3	0	15	3.20	0
		7%	27%	47%	20%	0%	100%		
機関6-(2)	⑭ 広く社会の理解と支持が得られる	1	7	5	1	0	14	3.57	0
		7%	50%	36%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑮ 他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする	2	7	6	0	0	15	3.73	0
		13%	47%	40%	0%	0%	100%		

7. 評価結果の活用について

(1) 今回の評価(機構の評価結果だけでなく、対象校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。)を契機として課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項(または実施済みの事項)について

(省略)

(2) 今後、次のような事柄に評価報告書を用いる予定について(複数回答可)

- 1 対象校の広報誌に評価結果を掲載する。
- 2 対象校のウェブサイトで評価結果を公表する。
- 3 資金獲得のための申請書に記載する。
- 4 学生募集の際に用いる。
- 5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。
- 6 その他(具体的に)

1	2	3	4	5
3	14	0	2	2

校数

15

9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関9-	① 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	2	4	8	1	0	15	3.47	0
		13%	27%	53%	7%	0%	100%		
機関9-	② 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	2	5	6	1	0	14	3.57	0
		14%	36%	43%	7%	0%	100%		
機関9-	③ 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	1	1	10	1	1	14	3.00	0
		7%	7%	71%	7%	7%	100%		

10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

【5:非常に良くなっている～3:どちらとも言えない～1:非常に悪くなっている】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関10-	① 評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった	1	5	8	0	0	14	3.50	0
		7%	36%	57%	0%	0%	100%		
機関10-	② 評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった	1	8	5	0	0	14	3.71	0
		7%	57%	36%	0%	0%	100%		
機関10-	③ 訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった	1	7	6	0	0	14	3.64	0
		7%	50%	43%	0%	0%	100%		
機関10-	④ 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった	1	1	12	1	0	15	3.13	0
		7%	7%	80%	7%	0%	100%		
機関10-	⑤ 評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった	1	3	8	3	0	15	3.13	0
		7%	20%	53%	20%	0%	100%		
機関10-	⑥ 説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった	2	9	3	0	0	14	3.93	0
		14%	64%	21%	0%	0%	100%		
機関10-	⑦ 評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった	1	10	4	0	0	15	3.80	0
		7%	67%	27%	0%	0%	100%		
機関10-	⑧ 対象校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった	2	6	6	0	0	14	3.71	0
		14%	43%	43%	0%	0%	100%		
機関10-	⑨ 評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった	0	2	10	0	1	13	3.00	0
		0%	15%	77%	0%	8%	100%		
機関10-	⑩ 自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった	1	3	11	0	0	15	3.33	0
		7%	20%	73%	0%	0%	100%		
機関10-	⑪ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった	1	3	11	0	0	15	3.33	0
		7%	20%	73%	0%	0%	100%		

平成26年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】

【高等専門学校】

1. 評価基準及び観点について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評1-	① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	5	15	1	0	0	21	4.19	0
		24%	71%	5%	0%	0%	100%		
評1-	② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	3	16	2	0	0	21	4.05	0
		14%	76%	10%	0%	0%	100%		
評1-	③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	3	15	3	0	0	21	4	0
		14%	71%	14%	0%	0%	100%		
評1-	④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	6	10	4	1	0	21	4	0
		29%	48%	19%	5%	0%	100%		

【2: ある 1: ない】

		2	1	計	平均	未回答
評1-	⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった	9	12	21	1.43	0
		43%	57%	100%		
評1-	⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	3	16	19	1.16	2
		16%	84%	100%		

2. 評価の方法及び内容・結果について

(1) 自己評価書について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(1)-	① 対象校の自己評価書は理解しやすかった	0	7	12	2	0	21	3.24	0
		0%	33%	57%	10%	0%	100%		
評2-(1)-	② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた	0	8	13	0	0	21	3.38	0
		0%	38%	62%	0%	0%	100%		
評2-(1)-	③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	0	9	10	2	0	21	3.33	0
		0%	43%	48%	10%	0%	100%		

(2) 書面調査について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(2)-	① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	4	14	3	0	0	21	4.05	0
		19%	67%	14%	0%	0%	100%		
評2-(2)-	② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	0	2	11	6	2	21	2.62	0
		0%	10%	52%	29%	10%	100%		

(3) 訪問調査について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(3)-	① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	2	11	7	1	0	21	3.67	0
		10%	52%	33%	5%	0%	100%		
評2-(3)-	② 訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた	4	12	5	0	0	21	3.95	0
		19%	57%	24%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	③ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった	12	7	0	0	0	19	4.63	0
		63%	37%	0%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	④ 訪問調査の実施内容(高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)の方法は適切であった	8	7	1	2	0	18	4.17	0
		44%	39%	6%	11%	0%	100%		
評2-(3)-	⑤ 訪問調査の実施内容(高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)に係る時間配分は適切であった	5	9	2	2	0	18	3.94	0
		28%	50%	11%	11%	0%	100%		
評2-(3)-	⑥ 訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	5	11	2	0	0	18	4.17	0
		28%	61%	11%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者(事務担当者を除く)の人数や構成は適切であった	9	8	1	0	0	18	4.44	0
		50%	44%	6%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	⑧ 訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった	11	6	1	0	0	18	4.56	1
		61%	33%	6%	0%	0%	100%		

(4) 評価結果について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(4)-	① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	8	12	1	0	0	21	4.33	0
		38%	57%	5%	0%	0%	100%		
評2-(4)-	② 基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった	8	9	4	0	0	21	4.19	0
		38%	43%	19%	0%	0%	100%		
評2-(4)-	③ 評価結果全体としての分量は適切であった	4	11	5	0	1	21	3.81	0
		19%	52%	24%	0%	5%	100%		
評2-(4)-	④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった	6	11	4	0	0	21	4.1	0
		29%	52%	19%	0%	0%	100%		

3. 研修について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評3-	① 研修の配付資料は理解しやすかった	3	10	5	0	0	18	3.89	1
		17%	56%	28%	0%	0%	100%		
評3-	② 研修の説明内容は理解しやすかった	3	9	6	0	0	18	3.83	1
		17%	50%	33%	0%	0%	100%		
評3-	③ 研修の内容は役立った	9	7	2	0	0	18	4.39	1
		50%	39%	11%	0%	0%	100%		
評3-	④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った	5	10	3	0	0	18	4.11	1
		28%	56%	17%	0%	0%	100%		
評3-	⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった	1	11	6	0	0	18	3.72	1
		6%	61%	33%	0%	0%	100%		

4. 評価の作業量、スケジュール等について

(1) 評価に費やした作業量について

【5: とても大きい～3: 適当～1: とても小さい】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(1)-	① 自己評価書の書面調査	6	12	3	0	0	21	4.14	0
		29%	57%	14%	0%	0%	100%		
評4-(1)-	② 訪問調査への参加	1	7	12	0	1	21	3.33	0
		5%	33%	57%	0%	5%	100%		
評4-(1)-	③ 評価結果(原案)の作成	1	7	10	1	1	20	3.3	1
		5%	35%	50%	5%	5%	100%		

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

【5:とても長い～3:適当～1:とても短い】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(2)-	① 自己評価書の書面調査	1	0	9	8	2	20	2.5	1
		5%	0%	45%	40%	10%	100%		
評4-(2)-	② 訪問調査への参加	1	1	15	3	0	20	3	1
		5%	5%	75%	15%	0%	100%		
評4-(2)-	③ 評価結果(原案)の作成	1	1	14	3	0	19	3	2
		5%	5%	74%	16%	0%	100%		

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

【5:強くそう思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(3)-	① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	2	12	4	1	0	19	3.79	2
		11%	63%	21%	5%	0%	100%		
評4-(3)-	② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった	2	11	5	1	0	19	3.74	2
		11%	58%	26%	5%	0%	100%		
評4-(3)-	③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	2	10	6	1	0	19	3.68	2
		11%	53%	32%	5%	0%	100%		

(4) 評価作業にかかった時間数について

		計	平均	1校当たりの平均	未回答
評4-(4)-	① 自己評価書の書面調査	14	52.8 時間	22.1 時間/1校	3
評4-(3)-	② 訪問調査の準備	14	17.5 時間	7.7 時間/1校	3
評4-(3)-	③ 評価結果(原案)の作成	14	14.9 時間	6.3 時間/1校	3

5. 評価部会等の運営について

【5:強くそう思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評5-	① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった	8	10	3	0	0	21	4.24	0
		38%	48%	14%	0%	0%	100%		
評5-	② 部会運営は円滑であった	8	12	1	0	0	21	4.33	0
		38%	57%	5%	0%	0%	100%		

6. 評価全般について

【5:強くそう思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評6-	① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う	3	14	4	0	0	21	3.95	0
		14%	67%	19%	0%	0%	100%		
評6-	② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う	3	14	4	0	0	21	3.95	0
		14%	67%	19%	0%	0%	100%		
評6-	③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う	2	11	8	0	0	21	3.71	0
		10%	52%	38%	0%	0%	100%		
評6-	④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	4	12	4	1	0	21	3.9	0
		19%	57%	19%	5%	0%	100%		
評6-	⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	7	9	1	1	0	18	4.22	3
		39%	50%	6%	6%	0%	100%		
評6-	⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった	9	11	0	1	0	21	4.33	0
		43%	52%	0%	5%	0%	100%		

7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評7-	① 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	0	4	11	0	0	15	3.27	6
		0%	27%	73%	0%	0%	100%		
評7-	② 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	0	4	10	1	0	15	3.2	6
		0%	27%	67%	7%	0%	100%		
評7-	③ 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	0	2	13	0	0	15	3.13	6
		0%	13%	87%	0%	0%	100%		

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】 （高等専門学校）

1. 評価基準及び観点について

⑤ 自己評価しにくかった評価基準又は観点について

（基準5）「教育内容及び方法」

- ・ 基準5-3 「豊かな人間性」「創造性を育む」の定義が曖昧。

（基準6）「教育の成果」

- ・ 基準6-1 「教育の成果」に対して短期的な評価と長期的な評価があり、短期的な評価は比較的簡単だが、養成しようとする人材像に対する長期的な評価は難しい。「教育の成果」という場合、本来ならば長期的なレンジにおける評価が望ましいと思うが、対象となる者のフォローアップが困難であることに加え、本校における教育の成果のみを取り出し評価することの難しさもある。

（基準9）「教育の質の向上及び改善のためのシステム」

- ・ 基準9
- ・ 観点9-1-②について、「自己点検・評価」に関する「自己点検・評価報告書」の具体的なまとめ方とその達成評価方法について、観点が求めている具体的な評価のねらいがイメージしにくかった。

（その他）

- ・ 基準11-2-①
- ・ 観点11-2-①「自己点検・評価」に関する「自己点検・評価報告書」の具体的なまとめ方とその達成評価方法について、観点が求めている具体的な評価のねらいがイメージしにくかった。

○ 評価基準及び観点についての意見、感想等

- ・ 教育活動中心の基準設定に対して、基準10の財務は内容が少し異なるのではないのでしょうか。法律に定められた評価基準において、財務に関することが含まれることは理解しました。しかし、教育活動の評価とは別にして、選択的評価事項のように、財務に関わる自己評価として行うほうが妥当ではないかと思います。
- ・ 観点や基準が多すぎる、もちろん教育機関として取り組んでいなければならない事項ではあるが、この基準、観点のすべてを満たすには70名程度の教員である高専では相当な過重労働を強いることになる。
- ・ 評価の目的が、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」とあり、基準および観点がどのような関係を持ち達成されるのか、とくに改善の促進と社会からの支持につながるのか明瞭に示されていないように思います。
- ・ 課外活動や寮生活を通じての人間形成に関する評価が少ないように感じた。客観的に評価しにくい

項目であるが、高等専門学校教育では重要な内容だと思う。

2. 評価の方法及び内容について

(1) 自己評価について

③ 自己評価書に添付する資料で迷った点について

- ・ 詳しい資料を用意すると資料の量が膨大になり、かつ作業量の増大につながる。
- ・ 教育目標の達成度を学校としてどのように取り扱っているかについて、どのような資料を提示すべきか迷った。
- ・ 抽象的な教育目標「豊かな人間性の涵養」の裏付資料として何を提示すべきか迷った。
- ・ (記述と添付資料は学校に任されているため) 添付資料が明確には特定されていない。
- ・ 平成26年度から入学状況などについては共通フォーマットでの提出が求められたため、こういった資料の準備は円滑に行えた。一方で、観点5-2-③や観点5-6-③の「創造性を育む教育方法の工夫」を示す資料の収集と提示には、機構から繰り返し具体性のある資料の提示を求められ、どこまでの資料の提示をすれば良いのか迷った。
- ・ 「教育の目的を達成する上で・・・」の成果を示す資料の中には直接には繋がらなく、見送った資料も多い。つまり資料と教育目標との因果関係を明示しながら取り上げると膨大となるので代表例を示すしかない。つまりどれが適切な資料であるか選択に迷った。
- ・ どの程度の資料を付けるべきかを迷った。しかし、迷った資料については訪問調査時に提出を求められたため、全て付けるべきであったと思う。

⑥ 自己評価書の文字数制限に関し、必要と思われる文字数について

- ・ 全体の文字数制限だけにして、基準ごとの文字数制限は設けない方がよいと思う。
- ・ 文字数制限のために省略した箇所を確認事項に挙げられることが多かった。現在の文字数では十分な分析を記述することは非常に困難である。

○ 自己評価についての意見、感想等

- ・ 観点4-1-①および4-2-①、②のアドミッション・ポリシーは、これまでの理解と異なっていたため、大きな混乱が生じた。
- ・ あくまで自己評価なので、やや誇大して記述してしまう箇所があったことは自己反省すべき点である。教育現場ではアクションを起こしても単純に効果が表れることは少ない。そのような教育現場の藻掻きがこの自己評価書に盛り込めたのかと心配である。たぶん本当の教育とはこのような報告書に盛り込むことができない学生と教員とのふれあいの積み重ねが重要なのだと思う。
- ・ 近年様々な機関による外部評価を受けているため、自己評価の裏づけとなる資料の蓄積が進んでおり、比較的スムーズであったが、不十分な観点もあったため、次回の評価に向けてデータの蓄積方法など改善しておきたい。
- ・ 評価内容によっては、高額な資金が必要となる項目たとえば設備・施設のようにできるだけ配慮し

たいが実際には実施が難しい項目があるように感じます。

(2) 訪問調査等について

① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容の適切でなかった点について

- ・ 文書で回答を求めるとすれば、訪問調査は不要ではないか。訪問調査は、文書で回答できないものを調査する目的ではないかと思う。なお、エビデンスを文書で集めるのが調査の目的とのことだったが、口頭回答とした内容について、調査当日に文書で提出するよう言われ作成したものの、逆に「これを公表してよいのか」と言われ、結局口頭で説明した。

② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容の適切でなかった点について

- ・ 確認事項の内容が、理解できない箇所があった。また、異なる基準を示している内容もあったように感じる。

⑤ 訪問調査の実施内容の方法で適切でなかった点について

- ・ 2又は1の回答ではないので、本来は記載は求められていないことは理解しているが、平日に実施される訪問調査において、卒業生に面談を依頼することは決して容易ではないことを御認識いただきたい。

⑥ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分の適切でなかった点について

- ・ 面談の時間が短く、仕事を休んで平日に来校してもらった卒業生に対して申し訳なかった。もっと時間をとってゆっくりと卒業生の意見・考えを聞いて欲しかった。

⑧ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であったかについて

- ・ 具体的に適切な人数は不明ですが、直接面談やお話ができの方は2～3名でした。他の方がどのような役割をお持ちなのはわかりませんが、交通費等費用低減のためには多すぎると思われます。
- ・ 適切であるかどうかの判断は難しいが、来校した担当者は多忙なのではないかと感じた。

○ 訪問調査等についての意見、感想等

- ・ 訪問調査は時間、人数の制約があると思うのでどうしても表面的な確認作業に過ぎない。学生や教員の面談は調査を受けるほうが人選するので、それなりの人物が対応することになる。特に学生は面談に耐えうる人物を選んでいる。質問された内容も在り来りのものであり、ややセレモニー的な感じとなってしまっている感がある。
- ・ 訪問調査2日目（最終日）の最後に行われた「学校関係者（責任者）への訪問調査結果の説明及び意見聴取」での結果説明後に、各審査員からコメントをお聞きする時間があった。この際に、次回認証評価に向けたアドバイスや本校学生との面談時に感じられた感想などを具体的にコメントいただきたい

た。こうした機会は次回以降の認証評価でも続けて設けていただきたい。

- ・ 短時間で多岐にわたる調査をする姿を拝見し、担当者の大変さを感じた。面談する職員が、学生の人数の割には少なく、時間が短いのではないかと思う。面接者の意見を十分に汲み取れているのだろうか。決まりなのでやっているように思えた。
- ・ 訪問調査の前に「書面調査による分析状況」「訪問調査時の確認事項」を提示していただき、対応することができた。提出用のエクセルのシートも色分けされており、見やすく記入しやすかった。当日の朝にもコメントをいただき、追加資料の準備も何とか対応できた。

3. 評価の作業量、スケジュール等について

(1) 評価に費やした作業量について

○ 評価に費やした作業量についての意見、感想等

(具体的にどのような作業において作業量が大きかったかについて)

- ・ 自己点検書作成にあたり、資料の収集と観点ごとの内容の取り纏めの精査。文字数制限への対応。
- ・ それぞれ執筆に時間と労力を要するのはもちろんのこと、資料の収集と選別および電子化、資料の貼り付けなど手間が大きかった。また、複数の教職員による文書の校正作業についても多くの時間が割かれているため、作業量としてはかなり大きかった。
- ・ やはり普通の学校運営と評価書の観点・作成には認識的なズレがある。そこを埋めるべく、本文の記述を行い、資料を作成するには相当の作業量を要する。
- ・ 認証評価の準備は数年がかりとなる。自己点検書の作成時には資料集めなど多大な時間が必要となり、勤務時間内に到底対応できる作業量ではない。優秀な教員4名が週末出勤を繰り返して準備を進めた。基準、観点多いので、それぞれについてエビデンス資料を探し出さなければならず、関連部署（場合によっては校外の連携組織）にも協力を仰ぐことになった。
- ・ 総務課や学生課といった事務方に蓄積された情報の整理と入手は、事務スタッフの協力もあるため円滑に行えた。一方で、各学科の教育上の特色やプロジェクトに関する部分を集約することには時間がかかり、それを把握し資料へ納めていこうとする作業量は大きなものであり、かなりの負荷を勞した。なお、本編と別添資料編に分冊できたことで、資料の掲載は非常に楽になった。
- ・ 5と回答した項目はございませんが、作業量が軽微であると感じた項目はございません。訪問調査時確認事項が届く以前に評価書に係わる事務的確認事項がメールで散発的に届いています。訪問調査時には、口頭であっても評価に関わらないお問い合わせはご遠慮いただくか事前にそのように申し付けていただきたい。
- ・ 書式やレイアウトの指定が細かく、指定の書式に合わせるのに時間がかかった。
- ・ 前回審査に比べるとかなり負担は減っている。しかし、審査を受ける前からいろいろ説明をいただき、ポイントをついた自己点検書を作成することを目指したが、観点によっては、直接的なエビデンスを示すことができないものもあった。その場合、状況説明などから説明することになり、資料が増加した。また、それに対する質問事項に応えるために、さらに作業が増えたこともあった。

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

○ 機構が設定した作業期間についての意見、感想等

(具体的にどのような作業において作業期間が長かったかについて)

- ・ 「訪問調査時の確認事項」が、訪問調査の1ヶ月前に連絡されるが、回答を郵送で提出することを考えると、もう少し余裕があると助かります。
- ・ 訪問調査時の確認事項を示していただいたのが訪問調査の二週間ほど前だった。もう少し早いタイミングを示していただくと余裕をもって準備ができた。高専の教員は授業や課外活動指導など日常から負荷が大きい状態なので、急いで対応するにはどうしても勤務時間外となってしまう。
- ・ 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項への対応は、予想以上に分量が多く大変だった。自己点検書のブラッシュアップ不足もあるのだが。訪問調査当日は、適切な作業時間であったと思う。各委員の先生方も効率よく作業をされていた。

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

○ 評価作業に費やした労力についての意見、感想等

- ・ 社会からの理解と支持に関しては、膨大な量の資料を見直し、わかりやすくまとめることに労力を傾ける必要があると考える。
- ・ 組織として教育活動の質の保証としては貴重な仕事であった。しかし、認証評価の実質的な準備作業は数名の教員で対応したので、質の保証について全教職員の意識が高まったわけではない。
- ・ 教職員の日常は多大な仕事に追われているので認証評価について情報共有できなかった。教員会議棟で認証評価を受審することは周知したが、その受審内容や本校の自己点検書の内容まで説明できなかった。自己点検書は校内WebからDLして閲覧可能にしてあるが、どれだけの教職員が読んだのか不明である。したがって、教職員の一部には認証評価がどのようなものであるかも理解していない可能性がある。

また、本校の自己点検書が本校にかかわるどれだけの外部の方に読んでいただいたかも心配するところである。運営費交付金をいただいているので説明責任を果たす必要はあるが、ここまで基準、観点を詳細に網羅して実施する必要があるのか検証が必要であろう。

- ・ 3種類の外部評価が並行して行われており、それぞれに対応評価作業が担当者の負担を増幅している。本校のように小規模校では、教育研究活動の時間を圧迫している負の側面が大きいと感じる。
- ・ 評価作業には多くの時間と労力を費やしたが、定期的カリキュラムの内容などを外部機関によって客観的にチェックしていただくことは、改善や見直しのために必要なことである。

自校のみで改善へのコンセンサスを得難い事柄があった場合に、外部機関から適切な指摘とアドバイスをいただくことで、外圧を含めた改善へ向けた具体的な動きにつなげることもできると考えている。

- ・ 社会からの理解と支持を得るためには、必要な作業だと思うが、点検評価書を書くために多くの教員が時間を割くことは、本末転倒だと思う。今後は、効率的に点検作業をすることも重要だと考える。JABEE、認定専攻科の審査などと重なる点検項目については、より効率的に考えなければならない

いと思う。

- ・ 情報やデータの収集や整理に費やすことに苦勞し、今後はデータベース化を行うなど、情報収集をしやすい環境を整える必要があることがわかりました。

(4) 評価のスケジュールについて

○ 評価のスケジュールについての意見、感想等

- ・ 評価のスケジュールに関しては大きな問題を感じませんでした。
- ・ 本校がまとめた自己評価書の草案を元に、4月に貴機構において事前相談を実施していただいた。この際に非常に多くの具体的な加筆修正に向けたアドバイスをいただいた。このような自己評価書提出前の事前相談の機会提供は今後も継続していただきたい。
- ・ 日程に関しては、学校の行事予定を考慮して組んでいただいているので、非常にスムーズであった。ただ、今回は別の機関による専攻科の審査と重なったため、提出時に事務局が大変であった。訪問調査に関しては、JABEEの審査と近い日程であったため、資料の搬入に気を使ったが、結果的には審査が続いたことは良かった。
- ・ 評価作成は前年度より準備してきましたが、部署移動や人事異動、また、授業やその他の業務もあり夏季長期休暇が利用できれば評価作成に専念できると感じます。

4. 説明会・研修会等について

○ 説明会・研修会等についての意見、感想等

- ・ 認証評価は担当者だけでなく、学校全体で行うものであるという意識を明確にするため、訪問説明は当校にとって役立ちました。
- ・ 前回受審から年数が経っていることもあり、手探りの状態で自己点検・評価書の作成を始めとする審査の準備を行った。訪問説明などのような事前に事務担当者に確認や相談する機会があれば、もっと効率よく準備を進めることができ、双方にとって有意義な認証評価審査になると思う。本校はこのような制度があることを認識していなかったため、もっと積極的に審査される学校に対して利用を促してほしい。
- ・ 説明会に参加した。説明会当日に内容はよく理解できない部分もあったが、帰ってから配布資料を読むことによって理解できた。配布していただいた冊子は評価の準備にたいへん役に立った。
- ・ 機構が配布された自己評価書の作成イメージとそこに例示されていた資料イメージは、自己評価書の作成及び資料収集において大変役に立った。また、自己評価書の各基準の文章量についても具体的にどの程度まで超過して良いかを説明いただき、自己評価書をまとめる上で大変参考になった。
- ・ 審査を受けるにあたって講師の方に着ていただき全教職員に対して行なった訪問説明は、教員の意識付けになった。教務主事、事務部長、担当者が機構にお伺いして、個別に対応していただいた相談では、長時間にわたり、観点ごとに丁寧にご教授していただき大変ためになった。お忙しい中、対応していただき、とても感謝している。受審をする高専担当者のために行なわれた説明会の評価は(4)としたが、各資料も十分読み込めば役に立つ内容だと思う。ただ、各高専の担当者が全教員に簡単に、

具体的に説明できる資料があれば、なおよいと思う。

5. 評価結果（評価報告書）について

（1）評価報告書の内容等について

○ 評価結果（評価報告書）についての意見、感想等

- ・ 本校に対して妥当な評価であった。
- ・ 平成26年度から自己点検書において本文と資料が別冊となった。Webで公開する資料が膨大となるので本文だけの公開を予定している。
- ・ 社会からの理解と支持を得るためには、評価結果を公開することは大切なことだと考える。

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

（1）自己評価を行ったことによる効果・影響について

○ 自己評価を行ったことによる効果・影響に関連しての意見、感想等

- ・ 学内の役職に就いている教員、自己評価担当者の目標達成に対する認識度が向上した。
- ・ 教職員の日常は多大な業務に追われているので認証評価について情報共有できなかった。教員会議等で認証評価を受審することは周知したが、その受審内容や本校の自己点検書の内容まで説明できなかった。自己点検書は校内WebからDLして閲覧可能にしてあるが、どれだけの教職員が読んだのか不明である。したがって、教職員の一部には認証評価がどのようなものであるかも理解していない可能性がある。
- ・ 年度ごとの自己点検はルーチン的に取り組んでいるが、その総括的な認証評価は担当する教職員だけがかわり、その膨大さ故になかなか多くの教職員を巻き込むことができなかった。
- ・ 今回まとめた自己評価書は、選択的評価事項も含めれば、本校の教育・研究・地域貢献の内容がほぼ網羅された形でまとまっていることから、現状における本校の特色と課題点がほぼ全て記載・整理されている。この結果、自己評価書は外部有識者による評議員会への説明資料としてもすでに使用しており、さらに今後は新任教員が本校を知る上での良い手引書にもなると考えている。
- ・ この半年間だけでは自己評価を行ったことによる効果は不明だが、長期的に見れば改善されると思う。
- ・ 今回、審査を受けてことで、各教員、教育研究活動を改善していくことの重要性が、徐々に浸透してきている。しかし、まだ不十分な点も多く更なる意識改革をしていきたい。
特に、非常勤の教員などへの啓蒙が重要だと考える。
- ・ 本校の状況が教職員全員に周知把握することができ、現状を再確認することができたと感じます。

（2）機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

○ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連しての意見、感想等

- ・ 本校の上層部にとっては本校の教育システムの長所と問題点を把握し、どの点に焦点を当てて改善活動を実施していかなければならないかを抽出することができた。ただし、世の中の動きは速く、こ

れまで行ってきた教育活動の延長線上に将来性を見通すことはできない。

- ・ 各基準で優れた点を多数取り上げていただき、教職員のこれまでの各方面での積極的な取り組みを評価していただいた。この評価が励みになり、教職員による教育・研究・地域貢献への独創的な取り組みが一層活発化することにつながっていくと考えられる。
- ・ 教員の意識改革には役立ったと考える。これを学生の理解と支持につなげていくことが重要であると考える。
- ・ 改善すべき点を指摘されることにより、本校の弱いところを知ることができ、検討する機会が得られたと感じます。

7. 評価結果の活用について

①今回の評価を契機として、何らかの変更・改善を予定しているもの（又は実施済みのもの）について

○主要な変更・改善事項及び変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度について

※参考度：【5：非常に参考になった～3：参考になった～1：あまり参考にならなかった】

（基準1）「高等専門学校の目的」

- ・【課題】学校の目的について、様々な手段により学校構成員に周知を図る取組を実施しているものの、学生への周知状況は十分とはいえない。
【変更・改善】学校の目的が分かりにくいこと、特に科目と目的の関係が分かりにくいことから、今年度から目的の見直しについて議論し、改正していく予定である。【4】
- ・【課題】目的の学生への周知に関して、教育理念、教育目標の周知は十分とはいえない。
【変更・改善】教務主事が入学式、始業式の中で言及した。担任もいろんな機械を通じて周知するようにしている【5】
- ・【課題】学校の目的について、様々な手段により学校構成員の周知を図る取組を行っており、学生及び常勤教員の実際の周知状況を把握する取組を行っているものの、それ以外の学校構成員の周知状況を把握する取組は十分とはいえない。
【変更・改善】学校運営委員会において「改善を要する点」について、今後の対応（案）が示され関係の委員会等で検討することとしている。【3】

（基準4）「学生の受入」

- ・【課題】入学者選抜の基本方針はあるが、明文化して公表していない。
【変更・改善】関連委員会で作成し整備する予定である。【4】
- ・【課題】入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を構成する「求める学生像」は明文化されているが、もう一つの構成要素である「入学者選抜の基本方針」については、考え方は教職員に共有されているものの、明文化されていない。
【変更・改善】今年度入試に間に合うように明文化していく予定である。【4】
- ・【課題】「入学者選抜の基本方針」今後明文化する予定であるものの、現時点では明文化されていない。
【変更・改善】平成28年度入学者募集要項から順次明文化していく。【5】

- ・【課題】入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を構成する「入学者選抜の基本方針」については、今後明文化する予定となっているものの、現時点では明文化されていない。
【変更・改善】来年度から高専の入試がマークシート化することを契機に入試方法、選抜方法の改善を進めている。これをもとに「入学者選抜の基本方針」も明文化し、公表・周知する。【5】
- ・【課題】入学者選抜の基本方針の主旨を伝えているものの、明文化して公表していない。
【変更・改善】 今後明文化する予定である。【4】
- ・【課題】入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に関する教職員への周知を図る取組を行っているものの、実際の周知状況を把握する取組は十分とはいえない。
【変更・改善】学校運営委員会において「改善を要する点」について、今後の対応（案）が示され関係の委員会等で検討することとしている。【3】

（基準5）「教育内容及び方法」

- ・【課題】専攻科課程の学習・教育目標C-1達成について、出身学科によって不明瞭な点がある。
【変更・改善】C-1達成要件をH27年度入学生から変更し、専攻科課程での達成を明確にした。【4】
- ・【課題】専攻科課程において、学修時間の確認方法および準備学習の内容が明記されていない。
【変更・改善】自学自習時間を学生自らが記録することをシラバスに記載し、学生に伝える方法を今年度採用している。【4】
- ・【課題】準学士課程及び専攻科課程における教員のシラバス活用状況を学校として把握する取組は十分とはいえない。
【変更・改善】次年度のシラバス作成において、十分意識して作成するよう教務委員会から指示があった。【3】
- ・【課題】準学士課程における教育目標の達成要領として一部不可能と思われる科目流れ図がある。
【変更・改善】科目流れ図を総点検し、必修科目等を設定することとしている。【4】
- ・【課題】一部科目において複数年度にわたって同一の試験問題が出題されている。
【変更・改善】教員への注意喚起、チェック体制の見直しを行うこととしている。【5】
- ・【課題】専攻科過程のシラバスにおいて、1単位の履修時間が授業時間以外の学修等を合わせて45時間である授業科目について、自学自習内容のシラバスへの記載は不十分といえず、学生に解りにくいものとなっている。
【変更・改善】シラバスの記述改善の検討を始めた。【3】
- ・【課題】各授業科目と学科の学習目標との関連性について周知を図る取組は十分とはいえない。
【変更・改善】平成27年度シラバスには関連性を明記することとしている。【4】
- ・【課題】①複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている。専攻科では再試験が同一問題であった。
②専攻科の講義で学習単位の説明が不十分であった。
【変更・改善】①教務委員会、専攻科教育委員会にて再発防止を検討し、教員に働きかけることとした。
②専攻科の履修要覧における学習単位科目の記述の改善とシラバスの記述方法について改善を行なった。【5】

- ・【課題】準学士課程及び専攻科課程における成績評価等の規定に対する学生の周知状況を学校として把握する取組は十分とはいえない。

【変更・改善】学校運営委員会において「改善を要する点」について、今後の対応（案）が示され関係の委員会等で検討することとしている。【3】

（基準6）「教育の成果」

- ・【課題】卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関して、「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育到達目標の項目に対応した意見聴取を進路先等の関係者から実施しているものの、学校の学習目標に対応した意見聴取は、卒業（修了）生及び進路先等関係者に対して実施していない。

【変更・改善】アンケート等を実施する旨の確認が総務委員会として行われた。【4】

- ・【課題】卒業生のアンケート結果からみて、「外国語の能力」の達成度が十分ではない。

【変更・改善】「外国語の能力」の達成度を向上させるため、平成27年度から教科「英語」の体系的カリキュラムを構成、海外留学の機会を付与することとしている。【4】

- ・【課題】専攻科課程の学習目標について、いくつかの細目については、把握・評価方法について不明瞭な点がある。

【変更・改善】平成27年度専攻科課程シラバスから明記していく。【4】

- ・【課題】卒業生のアンケート結果からみて、「表現と対話」の達成度が十分ではない。

【変更・改善】「表現と対話」の達成度を向上させるため、来年度から学習環境の整備を行うこととしている。【5】

- ・【課題】修了生、就職先アンケート結果からみて、「語学力」の達成度が十分ではない。

【変更・改善】「語学力」の達成度を向上させるため、来年度から学習環境の整備を行うこととしている。【5】

- ・【課題】①学生が身に着けた資質・能力に関する達成度評価、意見聴取がなされていない。②企業から「英語力、行動力、リーダーシップ」不足の指摘がある

【変更・改善】①点検評価専門部会にて今後検討する。②本科に関しては教務委員会で検討中であり、専攻科では、専攻科の改組において、グローバル人材を育成するカリキュラムを検討中であり、その中で対応していく予定である。【5】

（基準9）「教育の質の向上及び改善のためのシステム」

- ・【課題】教育の状況に関する自己点検・評価を実施しているものの、学校としての評価項目・評価基準の設定に不十分な点があり、評価結果が不明瞭である。

【変更・改善】本校の自己点検・評価項目に沿った自己点検書を作成した。評価項目については見直しをしていく予定である。【4】

- ・【課題】内部評価を実施し、自己点検・評価をしているものの評価項目・評価基準の設定は十分といえず、各種アンケートなどにより聴取した意見を教育の状況に関する自己点検・評価に十分反映してい

ない。

【変更・改善】教育研究委員会実施の授業改善アンケート等を基にした教育の状況に関する自己点検・評価結果を公表するとともにそのプロセスについて外部評価を実施していく。【4】

- ・【課題】年度計画の実施状況を点検し、教育の状況に関する自己点検・評価としているものの、評価項目・評価基準の設定は十分とはいえ、聴取した意見は十分には反映されていない。

【変更・改善】自己点検・評価法改善の検討を始めた。【3】

- ・【課題】年度計画の実施状況に関する点検を行い自己点検・評価としているものの、学校の活動の総合的状況に対する効果的な自己点検・評価の実施という点では、評価項目・評価基準の設定は十分とはいえない。

【変更・改善】自己点検・評価法改善の検討を始めた。【3】

- ・【課題】特に、準学士課程で卒業時に身に付ける学力や資質・能力の達成状況を把握・評価する方法には、学習・教育目標D「地球の一員としての倫理力」及び学習・教育目標E「社会とかかわるためのコミュニケーション力」などで一部不明瞭な点が見られる。

【変更・改善】準学士課程4～5年において、倫理力及びコミュニケーション力の育成につながる科目を選択必修化するなど、学習・教育目標の達成状況を把握・評価しやすくするためのカリキュラム改訂を予定している。【4】

- ・【課題】中期計画に基づく年度計画の実施状況の確認を行っており、教育の状況に関連する点を取りまとめ、教育の状況に関する自己点検・評価としているものの、自己点検・評価に関する評価項目、評価基準の設定には不十分な点が見られ、聴取した意見をもとにした自己点検・評価には評価内容が十分には記述されていない。

【変更・改善】本校独自の評価項目と評価基準の設定を行い、自己点検・評価書を5年に一度程度作成することを検討している。【4】

- ・【課題】学校構成員及び関係者からの意見聴取をもとに教育の状況に関する自己点検・評価を実施しているものの、学校として策定した評価項目に関する評価基準が不明瞭であり、教育の状況が適切に評価されているとはいえない。

【変更・改善】学校運営委員会において「改善を要する点」について、今後の対応（案）が示され関係の委員会等で検討することとしている。【4】

（基準11）「管理運営」

- ・【課題】学校の活動の総合的な状況に対する自己点検・評価に関しては、その実施要項に評価項目を定めているものの、その評価は年度計画の達成度を基準としており、継続的な点検・評価の実施という観点から十分とは言えない。

【変更・改善】自己点検評価を年度計画だけでなく教育活動や教育システムの全体を見ながら新たな課題点を見つけ出す方式を組み合わせるよう計画している。【5】

- ・【課題】不定期に自己点検・評価報告書を公表しているものの、学校の活動の総合的な状況についての自己点検・評価に関する学校として策定した評価項目・評価基準が不明瞭である。

【変更・改善】教育組織の改編（改組）により、本課題を考慮したシステムの見直しと同時に学校全体の評価項目およびその基準を明瞭化する予定である。【3】

- ・【課題】学校の活動の総合的な状況に対する自己点検・評価を実施し、公表しているものの、学校として策定した評価項目に関する評価基準が不明瞭であり、活動状況の評価が適切に実施されているとはいえない。

【変更・改善】学校運営委員会において「改善を要する点」について、今後の対応（案）が示され関係の委員会等で検討することとしている。【4】

（その他）

- ・【課題】【学校としての取組について】
【変更・改善】学校として取組み把握することを総務委員会で確認された。【3】
- ・【課題】学校独自の基準による自己点検評価（中期計画・年度計画による自己点検・評価が行われているものの、学校の活動の総合的な状況に対する自己点検・評価に関して、学校として策定した評価項目・評価基準が不明瞭である。）
【変更・改善】定期的な（2～3年に一度程度）自己点検評価実施予定【5】
- ・【変更・改善】指摘を受けた点について、対応策を検討中である。

8. 評価の実施体制について

○ 評価の実施体制について、対象校が行っている方策・工夫等、その方策・工夫等についてよかった点、悪かった点等、その他感想について

- ・ 自己点検評価を毎年実施し、機関別認証評価以外にも評価が継続的に実施されること。改善サイクルを明確に定め、PDCAサイクルによる活動を推進している。
- ・ 教育研究委員会実施の授業改善アンケート等を基にした教育の状況に関する自己点検・評価結果を公表するとともにそのプロセスについて外部評価を実施していく。
- ・ 認証評価に関する業務を総括する企画部だけではなく、教職員から成り各部署・各学科の事情を良く知るメンバーによる「認証評価専門部会」を設置した。専門部会メンバーは、各部署に関連する基準部分の執筆と資料収集を担当した。この専門部会を毎月1回、定期的及び臨時にも会合を行うことで、各部署・各学科の資料を円滑に収集することができた。

9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

① 教育研究活動等の質の保証に関する効果・影響について

- ・ 学生、教職員に対する様々な周知を通して教育改善サイクルの周知が図られ、目標に向かっての取組やチェックが行われ、不透明な評価や目標を改善することができた。
- ・ 認証評価だけでなく、毎年度の自己偏見評価活動、外部評価、JABEE受審等により教育研究活動の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」に関する活動は実施している。認証評価

もちろんこれらに有効に働いており、教育目標の周知や教育プログラムの再構成を行う契機となった。

- ・ 質の保証の観点から、「教育の質の保証」のための取り組みを開始し、文科省『質の高い大学教育推進プログラム』（教育GP）「学習達成度試験による専門教育の質の保証—インストラクショナルデザインの活用—」（平成20年度～22年度）のプロジェクトによって、専門教育の質の保証をめざしたシステムを構築した。認証評価を受けたことによる効果の一つと考える。
- ・ 前回の認証評価の指摘事項を踏まえ、PDCAサイクルの確立（点検・評価委員会、各部署の点検部会の設置）、自己点検・評価報告書のHP公開（年度毎、課題・問題点や教育活動状況を含むもの）、一般科目と専門科目との科目間連絡会の設置など、質の保証に関する体制づくりを行った。
- ・ 外部資金獲得に対する教員の意識改革がみられ、申請件数及び獲得件数が増加している。
- ・ 各教員がエビデンスに基づき成績評価をするのが当たり前になった。

② 教育研究活動等の改善の促進に関する効果・影響について

- ・ 前回の受審時、基準6および基準9において英語能力の向上力不足、国際感覚が低いことが指摘され、受審後に学年進行にともない継続して英語の授業時間を確保すること、ならびに国際交流推進室を設置して海外校と交流協定を結び交流を開始し、まずは学校全体として取り組みの基盤を作った。
- ・ 教育プログラムを検証し改善する際の一つのテンプレートになっていることは間違いない。
- ・ きめ細かい教育の推進に努め、留年者退学者の減少、及び卒業生数、5年卒業率の増大に至った。認証評価を受けたことによって得た自覚による効果の一つと考える。
- ・ 主体的意欲的に研究活動を進め、科研費の申請率、採択数とも飛躍的に向上した。認証評価を受けたことによって得た自覚による効果の一つと考える。
- ・ 前回の認証評価の指摘事項を踏まえ、教養教育（リベラルアーツ）の強化（第二外国語の見直し、中国語や韓国語の導入等）、英語力の強化（本科3年生、専攻科生のTOEIC全員受験等）、文科省教育GPなどの採択と教育への継続、JABEE認証を通じた専攻科教育の見直し・改善といった具体的な教育に関する改善を行った。
- ・ 学生の意見を聞きそれを改善につなげるという意識も高まった。また、何か行なったらエビデンスを残すようにとの意識も高まり、その結果の分析まで行なうように努力するようになった。

③ 教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に関する効果・影響について

- ・ 「必修科目」をなくし「必修科目」としたことで、社会へのカリキュラムの説明が明確になった。
- ・ 認証評価受審の効果・影響があったかの確認を怠っていません。
- ・ 本校（高専）を志願する中学生の意欲や、中学校及び保護者の理解が深まった。認証評価を受けたことによる理解と支持の効果・影響の一つと考える。
- ・ 本校を支援する地域企業等（技術振興交流会）の活動が活発化した。認証評価を受けたことによる本校の自信と自覚、及び社会の側からの理解が深まったことによる効果・影響の一つと考える。

10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

○ 質問の項目以外に良くなっていると思う事項について

- ・ 事前チェックをして頂いたことで、自己点検評価書作成方法が明確になったところが大変よかった。(前回は事前チェックをして頂く制度はあったかもしれないが利用しなかったと思われる)
- ・ 【よくなっている事項ではありませんが】この設問に回答できる教職員がいない。認証評価は7年ごとであり、前回の担当責任者はすでに退職しているので前回の認証評価に関する労力などの情報は不明である。高専では校長は5～6年で交代し、部長、主事も2～3年で交代するシステムをとっている。7年前の認証評価の作業時の雰囲気をしっかりと記憶しておくのは難しい。
- ・ 本編と別添資料編を分ける様式になったことで、それぞれを容易に分かりやすくまとめることができ、さらに十分な量の資料を添付することが可能となった。
- ・ ポイントを絞りやすくなったので点検書の作成などスムーズになった。

○ 質問の項目以外に悪くなっていると思う事項について

- ・ 評価の観点・原則が前回に比べるとより明確化されていることは作業を通じて理解できたが、それを報告書作成の基準・指針として、記述及び添付資料作成に当たっての観点として、具体的に示してくれた方が作業は進めやすい。

11. その他

○ 実際に評価を受けて期待どおりであったかについて

- ・ ほぼ期待通りであった。
- ・ 今回の審査を受けて、今後改善すべき点が明確になった点は期待どおりであった。対応できなかった点も学校として問題点を把握することができ、今後の改善が容易になったと考えている。
- ・ 認証評価受審により問題点、なかでも教育目標の達成度を学生個々人と学校全体でどのように確認できるか、ということが浮き彫りになった。学内ではとくに役職教職員の目標達成の意識が向上した。
- ・ 認証評価は組織や教育プログラムの改善を行っていく上では重要、且つ有効な作業と思われる。しかし、実際の教育は学生と教員の熱いふれあいの積み重ねであり、たとえしっかりとした教育プログラムを構築し改善を進めたとしても、教員の情熱と信念がなければ教育の効果は小さなものとなる。認証評価をはじめとした組織の改善作業と書類作成は多くの時間を要し、教員が学生と接する時間を圧迫しているという事実もある。多くの観点に基づいた自己点検書の作成は高専のような小さな組織にとっては過重な作業でもある。
- ・ 期待通りの評価結果をいただいた。改善を要する点は2点あったが、優れた点も多く指摘していただいた。さらに、改善を要する点についても今後の具体的な改善方法について審査員からアドバイスをいただいた。
- ・ 期待どおりだったが、終了して時間が経てば、それほど効果を感じない。しかし、外部から本校の状況を見ていただき、意見をいただけることに評価の意義があると思う。
- ・ 審査を受けるに当たって、相談などをした際、丁寧な対応をしていただきありがたかった。

法律に基づききちんとした教育をしているかの確認は大切であり、本校にとって有益であった。
厳しいご指摘もいただいたが、本校で行なっている良い所を探して評価していただき感謝している。

○ その他、当機構の行う評価についての意見等

- ・ 大学評価・学位授与機構で行っている、「機関別認証評価」、「認定専攻科の審査」、「特例適用専攻科の審査」、それぞれが別々ではなく、関連させ補完しあい、受審側の負担軽減に繋げてほしい。
- ・ 認定専攻科・J A B E Eなどいろんな審査を受ける様になり、各教員もエビデンスの残し方など、うまく対応するようになってきた。学校としてデータベース化をきちんとしたら、もう少し全体の処理が簡略化できると思うのでこれから取り組んでいきたい。

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
（高等専門学校）

1. 評価基準及び観点について

⑤ 評価しにくい評価基準又は観点について

（基準4）「学生の受入」

- ・ アドミッション・ポリシーと入学者選抜基本方針に関して、推薦選抜と学力検査の場合、面接の有無等も含めて、評価内容が異なり、一律に評価することは困難である。

また、該当校においてもアドミッション・ポリシーの理解度を確実に評価できる状況にあるとは考えられない。

（基準5）「教育内容及び方法」

- ・ 基準5-2-③、基準5-6-③における「創造性を育む教育方法」について、「育む」とするの
か否か、評価が難しかった。何をもち「育む」としているのか、対象校の回答があいまいである
ことが要因と考えている。

（基準10）「財務」

- ・ 10-2-③ 「適切な資源配分」
10-3-② 会計監査等が「適正」に行われているか。

（その他）

- ・ これまで大学に関わる認証評価（書面による評価）は複数担当しましたが、高等専門学校の認証
評価は初めてであり、私自身、高等専門学校に関する知識が極めて乏しいため、全般に評価が困難
でした。
- ・ 財務専門部会の委員を担当しましたが、基準9、11もチェックする機会がありました。基準9-
1-⑤、基準11-2-①が評価しにくいように思いました。
- ・ 創造性教育の工夫、学習指導法の工夫などは、文章、資料だけでは判断が難しく、現場の視察あ
るいは結果が具体的に示された資料等が必要な気がします。
- ・ 基準6と9の相互関係。
- ・ 基準5と基準9については、対象校の回答の仕方にも依るが、重複されていたり、5と9の違い
についてあまり意識していない印象のものが見受けられた。

⑥ 内容が重複する評価基準又は観点について

（その他）

- ・ 5-2-①～③、5-6-①～③、5-7-①、6-1-②、④、⑤、9-1-①、②、11-2
-③、④、⑤は内容に重複があり、学校により記載項目と内容が異なっていると思いました。

- ・ 基準6と9の相互関係。

○ 評価基準及び観点についての意見、感想等

- ・ 基準・観点が多くかつ細かいと思います。もっと simple にしてよろしいのではないのでしょうか？
すべて clear するには、現場の学校で多くの項目についてアンケート調査・チェック・改善を常にしなければなりません。
- ・ 評価基準および観点の構成や内容を教育活動を中心に設定しており、研究活動については選択的評価事項に入れていますが、研究活動も非常に重要な評価対象だと思いますので、評価基準の1つとして扱うことも検討の余地があると考えます。
- ・ 評価基準、観点とも適切であると感じました。

- ・ 基準9と11の違いが対象校にはわかりにくかったようである。混乱した記述が見られた。
- ・ 1点思ったことがありますので、書かせていただきますが、高専機構は今年度から研究を教育と同程度にするといたしました。それに伴ってだけではありませんが、専攻科の高度化の意味からも認証評価の中に選択的評価の「研究」ではない観点で、研究の評価を入れておく必要があると思います。現行では、教員組織で教授、準教授、博士、技術士等の人数等の設置基準を満たしているかどうかだけの教員組織の評価ですが、少なくとも専攻科を設置している高専は、個人の研究レベルに基づいた機関の評価結果（認定専攻科および特例専攻科審査結果等）を加えておく方が良いのではないかと思います。

なぜかと言いますと本評価を含めて教育内容について勘違いしている高専教員が多いことを心配しています。教育という言葉で、「教育方法」、「学生指導」に目が向いてしまい、本来最低限必要な「深い専門性」、「高度な専門性」という基本的な研究経験に基づいた高等教育機関としての素養に対する考えがおろそかにされている気がします。基本に基づかない教育方法、学生指導は無意味なものとなる可能性が大であると考えます。

- ・ 基準9の自己点検・評価と基準11の自己点検・評価の区別が不明確な対象校があったように思います。

また、自己点検・評価について2回たずねるのも、なにか煩わしいようにも感じます。学校は基準9の自己点検・評価と基準11の自己点検・評価を区別しておこなっているのではなく、全体をまとめて1つの自己点検・評価としているのですから、自己点検・評価について、1回の評価ですむようにできると、すっきりすると思います。

- ・ 評価基準及び観点の構成や内容自体は適切であると考えますが、評価結果が「対象校の教育研究活動等の質を保証しているか」、「対象校の教育研究活動等の改善を促進しているか」、「対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得ているか」と問われると、社会における認証評価の認知度、対象校の教職員の認証評価のとらえ方等を鑑みると、必ずしも明快な回答が出来ない状況にあると思います。

(後の6を見ると、ここは、あくまでも評価基準及び観点の構成や内容自体は適切性の間であったとすれば、適切な回答では無かったかもしれません。)

- ・ 初めて評価委員に加わったこともあり、たいへん難しく感じられた。(評価することについて)どこまで踏み込んで指摘するべきか、判断に迷う部分も多々あった。

2. 評価の方法及び内容・結果について

(1) 自己評価書について

① 対象校の自己評価書の理解しにくかった点について

- ・ 評価慣れのためか、記載内容が希薄なケースや評価の観点からずれたケースが見受けられる・ 機構側が意図することを対象校が理解していないと強く感じた。そのため、書いて欲しいことが書いてなくて、評価書原案を作成する際に苦勞した。事前に相談に来られたと言うことで安心していたが、もう少し対象校に自己評価書作成に関する具体的情報を与えた方がよいのではないかと感じた。

③ どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかについて

- ・ 必要な資料の例が挙げられているにもかかわらず当該資料を添付していないケースが散見され、評価観点に必要な資料に関する認識が足りないものと思われる。
- ・ 添付された資料が不完全で、判断に迷う場合がいくつかあった。例えば規程を引用する箇所では該当部分のコピーを不完全に示された場合があった。規程集一冊を丸ごと貸与していただく方が何かと便利である。

○ 自己評価書の様式についての意見、感想等

- ・ 簡潔に書いてもらうように、例えば字数制限、ページ数制限をしてもいいと思います。
- ・ 以下のような具体的な確認事項と回答の事例で、対象校に事前に伝えるべき点として

—————以下、事例—————

<7-1-②>

自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

○学生相談の件数は確認できるが、学生の満足度を示す資料があれば、提示願いたい。

【回答】

学生の満足度を示す資料はない。学生相談は主にメンタルなものが多く、相談に来た学生に直接満足度をきくべきではないと考えているからである。今後は、学生相談に関する満足度のはかり方についても検討していきたい。

—————以上—————

高専側としては、学生の心の問題に対応できる専門知識のある常勤教職員がいない場合がほとんどで、本確認事項のような「学生相談に関する満足度のはかり方について」まで各校にそれぞれ検討させるのは、負担が重すぎると思われ、事前に具体的な方法を、認証評価側で検討し提示すべきでは、と感じた。

- ・ これまでの自己評価書で不完全な記述のために機構が困った事例を観点毎にわかりやすくまとめ、予め評価対象校に示すことはできないか、今回の例で言えば、学校の目的等が資料の引用で済まされ、自己評価書に記載されていなかったために、機構としての評価書を作成する際にすべて追加することとなり、機構の教職員に多大な迷惑を掛けた（一応機構からの指示が明記してあったが、対象校には伝わっていなかったようである）。観点9と11の違いもわかりにくいものの一つであり、教育に関する事項が基準11に記してあるなど、混乱している印象を受けた。
- ・ 高専によって根拠資料の添付形式が異なっており、整理はされているものの、資料集が開きにくく取り扱いにくいものがあったので、資料のファイリング方法については統一した方が、良いと思います。また、同じ資料を複数個所で使用する場合は、観点が異なる場合は、新たに入れていただく読み取りやすくなると思います。
- ・ 観点の内容を的確に記述するように促すべきかと思います。
特に、観点の内容に対して的確な回答を持ち合わせていないような場合に、何とか関連づけて少しでも記述しようというような箇所が見受けられました。
- ・ 基準5と基準9について、まとめ方の例等を対象校に事前配布しておけば、適切な回答が得られるように思われる。（恐らく対象校の担当者も迷いながらまとめている部分があるものと思われる。こうした箇所を抽出して検討することで、評価する側と受ける側の感覚のずれは少なくなるものと考えられる。）

（2）書面調査について

② 書面調査を行うために必要であったと思われる参考となる情報（客観的データ等）について

- ・ 自己点検・評価にかかわる報告書等をウェブサイトまたは冊子で予め拝見できればさらに参考になったように思いました。
- ・ 対象校の規定集。

○ 書面調査についての意見、感想等

- ・ 審査マニュアルがあったので助かりました。ありがとうございます。
- ・ 副査として書面調査一次原案の作成依頼がありましたが、高等専門学校の認証評価は今回が初めてであり、かつ、高等専門学校に関する知識をほとんど持っていないこと、さらに、時期的に本学の業務に追われて時間が取れなかったことから、一次原案作成の大半を機構側にお願いしたことは申し訳なかったと思っています。
しかし、高等専門学校に関する知識をほとんど持たず、初めて高等専門学校の認証評価を行う大学教員にとって、副査としての書面調査一次原案作成は極めて困難であると思います。
- ・ 書面調査ではたいへんお世話になりありがとうございました。毎回、ご検討をいただき、コメントのひとつひとつがたいへん参考になりました。また、質問等にもいつも丁寧にご回答いただきました。関係の先生方と事務局のみなさまに心より感謝申し上げます。
- ・ 1年目に担当した時はかえって二度手間をおかけしたような感じでした。2年目に担当した時は、

少しは要領がつかめてきました。任期があるのかわかりませんが、再度担当させていただくと、もっと機構にも対象校にも貢献できると思います。

- ・ 評価担当として、経験不足で的確な指摘をできず、申し訳なく思っております。
- ・ 書面調査について、対象校の自己点検書の分析状況に不十分な点があり、根拠資料やウェブサイト等をもとに分析する箇所もあった。
- ・ 副担当以外の訪問校に関する評価書案を検討する時間が短すぎる。
- ・ 最初に講習会で基準等の説明を受けましたが、書面調査票の作製の具体的なやり方が理解できなく、機構の方にお手数をおかけしたと思います。具体的な記入の仕方を講習会でご指示いただければ良かったと思いました。ただし、講習会の時間がこれ以上長くなるのも困るので、難しいところだとも思います。

これも時間の制約から難しいでしょうが、書面調査の期間がやはり短いと思います。

- ・ 補足資料はやはりファイルで欲しいと思います。格段に調査時間が節約できます。
但し、ファイルの内容と実際の資料が少しでも異なれば全く意味がありません。
- ・ 認証評価の性格上、仕方無いと思われるが、やはり調査に関わる資料が多岐に渡っているため、どこまで調査すべきか難しい部分があった。
- ・ 仕方のないことと認識しているが、本音を言えばもう少し時間的余裕がほしかった。
- ・ 昨年度も記載しましたが、書面調査後、「……補足説明願いたい。」や「……補足資料を提示願いたい。」というシンプルな表現で対象校に確認や追加資料を求めますが、対象校に審査側の意図が十分に伝わらない気が致します。場合によっては、「……に関しては記載されていないので、……に関して補足説明願いたい。」や「……に関する資料ではなく、……に関する補足資料を提示願いたい。」などの様に、理由や具体性を持って対象校に確認や追加資料を求めるのは如何でしょうか。あえてシンプルな表現で回答を求められているとは思いますが、審査側の意図が対象校に伝わらないと、最初に提出された点検書と説明が同じであったり、追加資料も不十分なまま訪問調査で確認をとることになってしまいます。

(3) 訪問調査について

② 訪問調査で確認できなかった点について

- ・ 確認したい内容と異なる回答がいくつか見受けられた。

④ 訪問調査の実施内容に係る方法の適切でなかった点について

- ・ 午前中に、学校長や主事に指摘する事項を予め伝えて、午後の回答を用意してもらいます。席上ある程度の回答はいただき、それを踏まえたうえで書面で提出ということもありました。

午後には主事以外の先生方も多く集まり、その席上、主事から「書面でお答えします」だけの回答がありました。これでは、午前中の話を聞いている認証評価側には伝わっても、当該校でありながら他の先生方には何が問題となってどのように回答するのが全く伝わっていません。

情報の共有という意味でも、せつかく時間を設けているのだから、「書面で回答」の概略を説明し

たほうがよいと思います。

- ・ 学生・卒業生の面談者の人選に関し、対象校に都合の良いものだけを選んだのではないかと疑念を持った。学生や卒業生の幅広い意見を聴取できなくなる可能性がある。
- ・ 教育現場の視察はもう少し多くの科目を時間をかけてすべきです。すべての授業形態（座学、実験、研究等）および創造力を養う科目等で書面に各高専が記している特徴のある科目については実際の状況を見学する必要があると思います。

特徴ある取り組みにあげられている科目をほとんど見ることはできませんでした。

⑤ 訪問調査の実施内容に係る時間配分の適切でなかった点について

- ・ 教育現場の視察および学習環境の状況調査では、それぞれ4～5箇所を回りましたが、それらに充てられた時間は1時間弱と短く、十分な視察あるいは調査が出来たとは思えません。
- ・ 授業視察は、もう少し時間をかけた方がよいと思いました。

○ 訪問調査についての意見、感想等

- ・ タイムスケジュール等適切だったと思います。
- ・ 書面調査がOKであれば訪問調査なしもあってもいいかなと思います。
- ・ 訪問調査でも副査がリードする場面が幾つかありましたが、副査として、高等専門学校に関する知識をほとんど持たず、初めて高等専門学校の認証評価を行う大学教員を充てる場合は、このようなリード役は免除された方がよいと思います。

成績評価について、数多くある科目の中から数科目だけを選び、同じ問題が複数年度に亘り出題されていないかなどを短時間で確認しました。今回はそのようなケースが見つかりましたが、選ばれた数科目だけ、しかも短時間で判断するのは適切では無いと思いました。今後、さらに適切な方法を検討する必要があるように思います。

- ・ たいへんお世話になりありがとうございました。完璧にご準備いただきましたおかげで調査を滞りなく終えることができました。
- ・ 責任者面談のみ立ち会ったため、詳細は不明。
- ・ 学生・卒業生等との面談の最初に、面談の主旨を説明します。その文言の文例がとても難解で固い言葉が多く、聞いているだけではわからない言葉が多いと感じます。

高専1年生はもとより、若い卒業生でも、何を言っているのだろうと思わせて、いたずらに権威的な印象を与えがちです。

もっと対象の年代に合わせて、寄り添う・歩み寄る・リラックスしてもらって本当のことを言うてもらったための開始の表現に変えた方がいいと感じました。

- ・ 一般教職員との面談について、対象校によっては、確認事項でも聞いている体制（具体的には、補講体制など対象校がPRしているもの）に対応する（答えられる）教員を、面談者に選出していない場合があった。

このような点についても、対象校に事前に細かく依頼できれば、さらに意義深い訪問調査となる

と感じた。

- ・ 対象校の機構側からの要求に対する対応は迅速であったが、一部十分に検討されていない回答もあった。
- ・ 機構からの照会に対し対象校から適切な回答が得られない場合があった。再度照会する余裕を持たせるなどして訪問調査が円滑に進むようにしていただけると助かる。
- ・ 実際のところ、あと1日伸ばすことは難しいのですが、視察等による状況の確認および現地調査資料の確認作業にもう少し時間をかけたかった気がします。日程は厳しいのですが、朝から始められるので、両日とも1時間ずつ伸ばすことができればと思いました。
- ・ 初日の午前中、9時からミーティング、10時から校長およびおもなメンバーとの面談がおこなわれますが、ミーティングの1時間ではすべての基準について訪問調査メンバー間での打ち合わせが完了せず、中途半端な状態で10時から校長およびおもなメンバーとの面談に臨むことになりました。校長およびおもなメンバーとの面談をあと30分程度でも後ろ倒しにすると、訪問調査メンバー間での打ち合わせがおわり、どのような点を学校に伝えるかが明確にできると思います。
- ・ 訪問調査の意義は強く感じます。高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談もそれぞれに必要な不可欠であると感じます。但し、特にグループ面談の場合、限られた時間で、それぞれの実状を、ある程度正確に掴むのはなかなか難しいと感じます。また、中には本音とも思える真摯な発言もありますが、本質的な点において議論を進められないところが制度としてやむをえない所かと思えます。
- ・ 書面調査では知り得なかった生の情報を確認する上で、訪問調査の重要性を再確認した。
- ・ 面談の時間は、評価対象校により丁度良かったり、若干不足に感じたりすることがあったが、今回の配分で良いのではないかと思われる。教育現場の視察については、予定範囲内のコースであり、本当の意味での学校評価としては、抜き打ち的なクラス授業見学があっても良いように思われるが、現状では難しいものと考えられる。
- ・ 特になし。訪問調査は、認証評価に必要なことだと思っています。
- ・ 訪問調査では前日に宿泊しますので、事前打ち合わせの時間を前日に3時間ほど設けても良いのではないのでしょうか。

（４）評価結果について

○ 評価結果についての意見、感想等

- ・ 特にありません。
優れた点は、自分の経験値（判断基準）から判断せざるを得ない。審査員によってばらつくのでは？
- ・ 調査の内容を適切におまとめいただき、ありがとうございました。
- ・ 高専間で、「主な優れた点」の数がかなり違っているときがあります。少なければ、次回の認証評価までに改善・努力してもらえばいいはずです。高専間格差を気にするあまり、あえて○を◎に格上げする必要はないと思います。

- ・ 大学に対する評価に比べて高専に対する評価は受審校にとって負担が大きい気がする。評価疲れしているのではないかと感じた。
- ・ この形式で良いと思います。
- ・ 記録がなく、思い出すことも困難なので、ご勘弁ください。
- ・ 認証評価にどのようなスタンスで取り組むかというところの共通理解が重要であることは言うに及びません。そして、評価内容・結果をどのように受け取るかということもまた重要であります。

ピア・レビューということで、評価する側から認証評価に携わらせて頂きましたが、評価する側の真摯なスタンスに比し評価を受ける側のスタンスにはそれなりに隔たりがあるように感じたのが事実です。

あくまでも個人的な意見ですが、対象校によっては、評価のための評価が行われており、学生の教育、特に人間教育、教員自身の自己啓発という面において不十分な面が多々見られるように思います。ただ、高等専門学校がと言うことでは無く、むしろ管理教育的要素が強い高専は、独創的ではなく従順性に富む学生の育成という点において、現状では功を奏しているように思います。このことは特に就職面に強く表れており、なるだけ若年の能力を有した人材を欲しがめる企業にとっては高専卒業生は有り難い存在であると言えます。しかしながら、過去の高専の設立趣旨等を鑑みると、高専側としては、決して諸手を挙げて喜ぶべき事では無いと思います。結果的には、あくまでも制度に則して準学士としての存在意義を確立してしまったという事実であろうかと思えます。

ただ、専攻科修士の進路状況には目を見張るものがあります。様々な大学院に入学し、企業からも専攻科+修士修了の学生の評価は益々高まりつつあります。つまり、制度改革によりもたらされた事実であるわけですが、認証評価には、現状の制度内の基準のみで各対象校を評価するだけでは無く、制度の改革にも繋がるような大局的な判断・評価を望みたく思います。専攻科の、ある意味の成果は、学生と教職員も含めてモチベーションを高めたことによるのは確かであり、そのような本質的な意義を感じる教育、教育システムは自ら成長し、そしてその評価も高まっていくのだろうと思います。

- ・ 評価については、ある程度従来からの“流れ”を経験することが大事であると痛感した。
- ・ 分量に関しては、該当校、機構、双方にとって多く、作業時間等担当者のご苦勞が心配されます。できるだけ簡素な評価結果となるように、たとえば箇条書きによる表現を用いたりしてはいかがでしょうか。

3. 研修について

○ 研修についての意見、感想等

- ・ 資料が膨大で、後日、読むのが大変でした。(勉強にはなりましたが…)
- ・ 昨年6月に開催された研修は都合が付かず、その後、個別に研修をお願いしましたが、わざわざ一人のために時間を取って頂き、大変感謝しています。

私自身の経験から、高等専門学校に関する知識をほとんど持たず、初めて高等専門学校の認証評

価を行う大学教員に対しては、高等専門学校に関する基本的な内容（大学との違いも含めて）も研修して頂く方が良いと感じました。

- ・ 研修に参加させていただき、評価の意義や評価において注意すべき点など、ご教示いただきましたことが調査の際にたいへん参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 通常の学校勤務だけでは気が付かない多くの視点を与えていただき、本当に感謝しています。
うちの学校であればどうなのかと絶えず振り返るきっかけを得ることができ、とても有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・ パワーポイント資料について、文字が全部ゴシック体で、読むのが辛く、また大きな文字サイズで資料のページ数が多いので、勉強しにくい面があった。
- ・ サンプルが、実際の評価作業の感覚に近く、勉強しやすかった。
したがって、もう少しその内容が豊富で、詳しいとありがたかった。
- ・ 2年目ということもあり、研修内容等理解できたように思います。
- ・ 説明スピードが速く、ついて行けないことがあった。また耳が遠いせいか聞き取りにくい部分があった。研修の場で、書き込みをしなくてもよい程度に資料を詳しく記述していただくと余裕を持って研修を受けることができ、理解が進む。
機構教員がその場で説明する資料をできるだけ一つにまとめ、内容を詳しくしたらどうか。これに関連して評価書原案を作成する際に参照すべき資料を一つにまとめていただけると評価のポイントを見落とすことなく作業を進めることができ、効率の向上に繋がる。
- ・ 書面調査書の作製方法等についてももう少し詳しい具体的な説明があれば良かったと思います。内容が盛りだくさんで初めての私には少しついていけないところがありました。すでにご経験のある方と初めての方を分けて開催していただく等で調整いただければ良いのではないのでしょうか。例えば、評価全体の概念と作成方法の説明を初めての方対象に半日行い、翌日に全員に対して変更点・注意点の説明をいただければ、ご経験のある方は1日で済みますし、一堂に会せます。
- ・ 研修直後に、評価書が送られてくるほうが良いと思う。
- ・ 初めての評価委員に就いた人にとっては、研修時間内で理解することは大変難しく思われる。
- ・ 3回以上、評価に携わった人にとっては、適切なのでは？と考えられる。（様子を見た印象ですが。）
- ・ 海外出張のため欠席させていただきました。
- ・ 基準の留意点の説明が少々間延びしていた感があります。
もう少しメリハリを利かせていただくと、楽に聞くことができると思います。

4. 評価の作業量、スケジュール等について

(1) 評価に費やした作業量について

○ 評価に費やした作業量についての意見、感想等

- ・ 評価書の Page 数が多い。
- ・ 始めてで、評価基準がわからずマニュアルと対比しながら作業を進めたので時間がかかりました。

- ・ 何度も書きますが、高等専門学校に関する知識をほとんど持たず、初めて高等専門学校の認証評価を行う大学教員にとって、すべてが経験したことの無い事項であり、作業量はとても大きいものでした。
- ・ 自己評価書を丹念に読まなければ、書面調査は行えないので、限られた時間で熟読する時間がかかりかかりました。2年目で要点をピックアップするのには慣れたとはいえ、この点では変わりありませんでした。しかしそれは必要な作業なので、仕方がないと思います。
- ・ 根拠資料等の分析が不十分な点もあり、書面調査では昨年以上の時間を要しました。
- ・ 評価書案の作成に大変な労力がかかった。特に自己評価書が出来ない箇所である。その意味で自己評価書作成の段階で適切なものができるように対象校を援助していただけると助かる。もちろん対象校を強制してはいけませんが。
- ・ 書面調査の内容に応じて、学校案内。ウェブサイト（ホームページ）、シラバスなど、あちこち調べなくてはならず、時間を要した。（経験により要領を得るのかもしれませんが。）
- ・ 原案作成等に於いても、適切な文言など、考えさせられる面が多くあった。
- ・ 一次原案の担当箇所は多いと感じます。

（2）機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

○ 機構が設定した作業期間についての意見、感想等

- ・ 適切であったと思います。
- ・ 諸作業期間は短く、とても辛いですが、事務担当の方々には早急な対応をして下さり、感謝している。
- ・ 書面調査に関して少し作業期間は短いように感じていますが、長くしても同じかなとも思います。副査以外の学校に対する書面調査の時間が短い。
- ・ 今回、初めてで要領を得ず、作業について理解するのも時間がかかりました。限られた期間内での作業なので期間が短いのは理解できますが、もう少し時間が欲しかった気がします。
- ・ 今回は、当方の書面調査等に要した時間や、業務のタイミング（幾つか大きなイベント行事を抱えていました）により、上記①については、とても短く感じる状況になった。しかし、客観的に考えてみると、機構の担当者から迅速な対応やアドバイスがあったため、作業期間としては、適当であると思われる。
- ・ 一次原案を作成する時間的余裕が少なかったと感じています。

（3）評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

○ 評価に費やした労力についての意見、感想等

- ・ 現時点での、この質問はよく理解できません。評価作業に費やした労力がそれぞれの目的に見合うものであったかどうかは、将来、対象校がそれらの目的を達成したかどうかには依存するのではないかと思います。誤解しているのでしょうか？
- ・ 労を惜しむつもりはなく、尽力はしました。
それを次の改善に向けて実行するか否かは対象校の意気込み次第だと思います。

- ・ 評価に費やした労力は、評価目的、①②に十分見合っていると考えます。社会から理解と支持を得るという目的に見合うという③については社会への公表すなわちマスメディアの報道の仕方に左右されますので客観性を失わない程度に高専の長所、他の高等教育機関との相違点等を明確に表現して評価結果を公表する必要があるように思います。
- ・ 評価作業に費やした労力は大きかったです。他高専の実態も分かり、また訪問調査後に対象校から認証評価の目的等を理解いただけたように感じられたことで労力に見合う達成感を得ました。
- ・ ①、②、③の目的に見合うかという質問ですが、与えられた内容についてはある程度できたのではないかと思います。行った結果、労力が目的に見合うと評価されることを期待します。
- ・ “評価に労した時間＝対象校の特徴を知ること”は、訪問調査時に校長はじめ、各部署の担当者との面談の際に、相手の反応より良い回答が得られることで評価側にも伝わってくるものがある。真剣に評価してくれているので、対象校側としても真面目に答えなければ…という雰囲気がある。特に、学生やOB・OGとの面談時に、評価作業での労力（質問の糸口となる key-word をたくさん有しているか）が報われる印象がある。

（４）評価作業にかかった時間数について

○ 評価作業にかかった時間数についての意見、感想等

- ・ 時間はよく覚えていません。Evidence と対比しながら、マニュアルを見ながらの作業なので大変な作業です。
- ・ 申し訳ありませんが、それぞれの所要時間をカウントしておらず、具体的な時間数は記入できませんので、上記のように回答しました。
- ・ ①について、全く十分な時間ではありませんでした。本当に申し訳なく思います。
- ・ 時間数については明確ではありませんが、確認できた基準から、機構の担当の方に返送しましたところ、スムーズに処理いただけたので、何とか期限内に行えたという印象です。
- ・ 評価作業は注意力が散漫な状態では難しく、集中度を上げて取り組む必要がある。但し、一度評価委員を務めて分かったが、基準毎にチェック（勘どころも解ってくるので）しておき、最終的に再度見直し→まとめ、というやり方もあるものと思われる。
- ・ 評価結果原案は手書きで指示させていただきました。文書化は機構側で行っていただけたので大いに作業時間が少なくて済みました。ありがとうございました。

5. 評価部会等の運営について

○ 評価部会等の運営についての意見、感想等

- ・ 特にありません。部門長のご尽力で運営がスムーズでした。
- ・ 資料などすべてにおきましていつも万全のご準備をいただき、心より感謝しております。
- ・ 財務専門部会の運営につきましては、事務局、専門委員のご尽力で書面調査、訪問調査事前準備

そして評価結果の作成等が円滑に進められ、部会運営が順調に進められたと考えています。

- ・ 適当な人数であり、意見もお聞きいただき、不明な点に対する部会長をはじめ各先生方の説明も丁寧になされたと思います。
- ・ 第1部会と第2部会の指摘の内容に差があったところがありました（基準6で、アンケートの結果が悪かった内容にたいして改善点として指摘した（第1部会）か、しなかった（第2部会）かなど）。
- ・ 他の部会のメンバーもおそらく“そう”と思われそうですが、今回のスタッフの方々には大変お世話になり、勉強させて頂きました。（本来は、評価側なのでスペシャリストの立場なのですが。）

6. 評価全般について

○ 評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についての意見、感想等

- ・ 貴重な経験ができたと思います。
- ・ 私自身、高等専門学校の認証評価は今回が初めてであり、かつ、高等専門学校に関する知識をほとんど持っていないことから、あまり皆様のお役には立てなかったと思っています。さらに、時期的に本学の業務に追われて時間が取れなかったことから、副査として書面調査一次原案作成の大半を機構側をお願いしたことは申し訳なかったと思っています。

今回の私のように、高等専門学校に関する知識をほとんど持っていない大学教員に高等専門学校の認証評価を依頼される場合、それなりの配慮が必要と思います。例えば、研修の際に、高等専門学校に関する基本的な内容（大学との違いも含めて）も説明して頂くことや、少なくとも初年度は副査を依頼しないことなどが挙げられます。

- ・ たいへんお世話になりありがとうございました。評価部会の先生方および事務局のみなさまに心より感謝申し上げます。ご教示いただきましたことを今後の仕事に活かせるよう努めてまいりたいと思います。
- ・ ほぼどの高専でも、改善を要する箇所が、相似している印象を持ちます。事前相談の機会があるので、よく陥りやすい基準項目をもっと詳細に説明してもらえると、この傾向は防げるのではないかと思います。
- ・ 評価にかかわる対象校への負担が、当校への教育活動に影響を及ぼさないか、つねに懸念ではあった。
- ・ 7年ごとの受審は、教育機関として教育研究活動、管理運営および財務等すべての面で改善の努力をし続けることを可能にすると思います。しかしながら第2ラウンドではその姿勢が失われつつあるように感じました。各高等専門学校の個性伸長という点でも若干の物足りなさを覚えました。
- ・ 今回の評価を通じて、特に入学者選抜の基本方針と入学者選抜方法の関連の明確化や教育目標に対する達成度評価を厳密に行うことの必要性等いろいろと勉強させて頂きました。今回の評価作業等を通じて得た知識を私の所属組織の運営等に活かすようにしたいと考えております。部会長やほかの先生方、機構の事務職員の方々にはお世話になりました。ありがとうございました。

- ・ 研究についても評価したらどうか。高専が自前で学士の学位を授与する仕組みが確立されれば、教員の研究能力・研究実績が問われるようになるであろう。研究能力・研究実績のない教員では卒業研究、特別研究の指導は無理であろう。

対象校が評価疲れしていることを強く危惧する。対象校の教員はそれが我々の仕事ですからといていたが、それを理由に研究がおろそかになっている気がする。研究も重視していることをメッセージとして出す必要がある。

- ・ 今回、携わらせていただき、認証評価についての理解が深まりました。現在、認証評価、J A B E Eをはじめ外部評価を受ける機会が急増して、高専の現場はその準備・対応のためのいろいろな情報収集・自己評価・対策で疲れています。そのため何回か受審してくることで、マンネリ化し、うわべの対応策ばかりを考えるようになってきたようにも感じてきていました。しかし、今回の経験でシステムの向上に役立つことは間違いないことは分かりました。各学校内だけの自己評価というのは所詮続きませんから、定期的な受審が必要であり、社会情勢の変化等にも対応しなければ、高専の発展がなくなっていくだろうと感じました。
- ・ 所属以外の他高専をしっかり見させていただく機会をいただき、良きにつけ、悪きにつけ学校間の相違も分かりました。良い点は、見習い、所属高専において生かしていければと思います。
- ・ 認証評価の全体を把握できるようになった事は、自分の学校の認証評価時に於いては、何事にも替え難い大きな経験となった。
- ・ 自分の経験（高専間人事交流、国内留学、各種学会、地域活動、学生相談室運営など）が評価に反映できるということを実感できた。
- ・ 評価側の立場を経験させていただき感謝しております。
所属校の発展に大いに活かしていきたいと考えております。
ありがとうございました。

7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

① 対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった点について

- ・ 社会的状況の変化に対応し、学生の思考力を発揮させる継続的な取り組みが多く工夫見られてきた。
- ・ 前回は良い取り組みとなったものは続けられ、前回の指摘事項あるいは内部評価結果を受けての新しい取り組みを行うあるいは行おうとする努力は感じられた。ただし、ルーチンワーク化したアンケートや自己評価等にゆりみが出ているものがあったので、この機会に見直しが見直しができたのではないかと考えます。
- ・ 前回の認証評価結果を生かしている高専もあるが、そうでない高専も結構あったように思う。認証評価に基づく改善を継続的に行う仕組みがない高専が多いように思う。

② 対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった点について

- ・ 前回の認証評価で指摘を受けた事項のすべてではありませんが、国際化への対応など、指摘を受けて実際に改善に取り組んだとする項目の記述が見られましたので、効果があったのではないかと考えました。
- ・ 全体的な傾向であるが、創造的な教育を行おうとする取り組みは増加しているのではないかと考えました。

③ 対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった点について

- ・ 小中学校の教員研修や出前授業が盛んにおこなわれていることは地域社会において教育研究活動が支持されている現れではないかと思いました。

平成26年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

貴校名 _____

今回、当機構の評価を受けられて、どのように感じられたか、1～11の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものと同記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に○を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。なお、質問事項に該当する事例がなかった場合等、回答できない場合については、回答欄に「－」をご記入ください（下記参照）。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままで結構です。

いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また、記述式のものについては、学校名を伏せた上で、公表することといたします。

【回答例】

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

回答例①は、適切であった -----

5	4	3	2	1		3
5	4	③	2	1		

回答例②は、適切であった -----

(回答できない場合)

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

.....は、適切であった -----

5	4	3	2	1		－
---	---	---	---	---	--	---

1. 評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった -----	5	4	3	2	1	
	ある		ない			
⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった -----	2		1			

→※⑤について、2 とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が自己評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった -----	2	1	

→※⑥について、2 とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。

2. 評価の方法及び内容について

評価の方法及び内容について、(1) 自己評価、(2) 訪問調査等、(3) 意見の申立ての3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

(1) 自己評価について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った -----

迷った	迷っていない	
2	1	

→※③について、2とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

④ 貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのくらいの文字数であればよいと思うかをご記入ください。

⑦ 自己評価書の作成に当たって、既に機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考にした -----

参考にした	参考にしなかった	
2	1	

・自己評価についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(2) 訪問調査等について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

③ 訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く。以下同様。）が質問した内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

④ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の方法がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

⑥ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の時間配分がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

⑦ 訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑧ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であると思うかをご記入ください。

--

⑨ 訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・訪問調査等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 意見の申立てについて

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載するとしたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

以下は、意見の申立てを行った対象校のみお答えください。

③ 貴校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

3. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、(1) 評価に費やした作業量、(2) 機構が設定した作業期間、(3) 評価作業に費やした労力、(4) 評価のスケジュールの4項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

(1) 評価に費やした作業量について

	＜作業量＞					
	とても 大きい ←	適当			→ 小さい	
	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	
① 自己評価書の作成 -----	5	4	3	2	1	
② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応 -----	5	4	3	2	1	
③ 訪問調査のための事前準備 -----	5	4	3	2	1	
④ 訪問調査当日の対応 -----	5	4	3	2	1	
⑤ 意見の申立て -----	5	4	3	2	1	

・評価に費やした作業量についてご意見、ご感想等をご記入ください。

①～⑤について、5とご回答いただいた場合、具体的にどのような作業において作業量が大きかったかをご記入ください。

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

		＜作業期間＞					
		とても 長い (5)	← 適当 (3)	→ 短い (1)			
①	訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応 -----	5	4	3	2	1	
②	訪問調査のための事前準備 -----	5	4	3	2	1	
③	訪問調査当日の対応 -----	5	4	3	2	1	
④	意見の申立て -----	5	4	3	2	1	

・機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	
② 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るといった目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(4) 評価のスケジュールについて

- ① 自己評価書の提出時期（6月末）は適当であった
（適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。） ----
- ② 訪問調査の実施時期（9月上旬～11月下旬）は適当であった
（適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。） ----

適当	適当でない	
2	1	
2	1	

・評価のスケジュールについてご意見、ご感想等をご記入ください。

4. 説明会・研修会等について

認証評価に関する説明会、自己評価担当者等に対する研修会、その他機構が実施する各種説明等について以下の質問にお答えください。(⑧について、訪問説明を受けなかった対象校は回答欄に「-」をご記入ください。)

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)	
① 説明会の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1
② 説明会の内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1
③ 説明会の内容は役立った -----	5	4	3	2 1
④ 自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1
⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1
⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った -----	5	4	3	2 1
⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った -----	5	4	3	2 1
⑧ 機構が行った訪問説明は役立った -----	5	4	3	2 1
⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応） は適切であった -----	5	4	3	2 1

・説明会・研修会等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

5. 評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、（1）評価報告書の内容等、（2）自己評価書及び評価報告書の公表、（3）評価結果に関するマスメディア等の報道の3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（1）評価報告書の内容等について

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった -----	5	4	3	2	1	
② 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	5	4	3	2	1	
③ 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった -----	5	4	3	2	1	
⑤ 評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった -----	5	4	3	2	1	
⑥ 評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度等）を考慮したものであった -----	5	4	3	2	1	
⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた ---	5	4	3	2	1	
⑧ 評価報告書の構成及び内容はわかりやすいものであった -----	5	4	3	2	1	

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点がわかりにくかったかをご記入ください。

⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった -----	5	4	3	2	1	
----------------------------------	---	---	---	---	---	--

(2) 自己評価書及び評価報告書の公表について

① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイト等で公表している--

している	していない	
2	1	

② 評価報告書をウェブサイト等で公表している -----

2	1	
---	---	--

(3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価結果（評価報告書）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と機構の評価結果を受けての効果・影響とに分けて質問しますので、それぞれお答えください。(具体の活用例、改善例については、別途「7. 評価結果の活用について」で質問します。)

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができた -----	5	4	3	2	1	
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた -----	5	4	3	2	1	
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した -----	5	4	3	2	1	
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した -----	5	4	3	2	1	
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進した -----	5	4	3	2	1	
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立った -----	5	4	3	2	1	
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進した -----	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校の個性的な取組を促進した -----	5	4	3	2	1	
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した -----	5	4	3	2	1	
⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した -----	5	4	3	2	1	

・自己評価を行ったことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想等がありましたらご記入ください。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができる -----	5	4	3	2	1	
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる -----	5	4	3	2	1	
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する -----	5	4	3	2	1	
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する -----	5	4	3	2	1	
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進する -----	5	4	3	2	1	
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立つ -----	5	4	3	2	1	
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進する -----	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校の個性的な取組を促進する -----	5	4	3	2	1	
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する -----	5	4	3	2	1	
⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する -----	5	4	3	2	1	
⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する -----	5	4	3	2	1	
⑫ 貴校の教育研究活動等の質が保証される -----	5	4	3	2	1	
⑬ 学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる -----	5	4	3	2	1	
⑭ 広く社会の理解と支持が得られる -----	5	4	3	2	1	
⑮ 他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする -----	5	4	3	2	1	

・機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想等がありましたらご記入ください。

7. 評価結果の活用について

① 今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）がありましたら、その主要な事項について、簡潔にご記述ください。

また、その変更・改善の際に、今回の評価はどの程度参考になったかを5段階でお答えください。

特に、評価結果において「改善を要する点」として指摘を受けた事項について、変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）がありましたら、必ずご記述ください。

注：本質問は、機構の評価がどの程度対象校の改善に活用されているかを把握することにより、評価方法の改善を図ろうとするものです。貴校の変更・改善の取組状況自体を評価することを目的とするものではありません。

非常に参考になった ← 参考に → あまり参考に
 参考になった ← なった → ならなかった
 (5) (3) (1)

課題	(記入例) 【基準6】卒業生のアンケート結果からみて、「外国語の能力」の達成度が十分ではない。	5	4	3	2	1	3
変更・改善	「外国語の能力」の達成度を向上させるため、来年度から、カリキュラムの充実、学習環境の整備を行うこととしている。						
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							

※必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしてください。

② 貴校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（複数回答可）

1 貴校の広報誌に評価結果を掲載する。	2 貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。
3 資金獲得のための申請書に記載する。	4 学生募集の際に用いる。
5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。	
6 その他（具体的に）	
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> [</div>	

回答欄	
-----	--

8. 評価の実施体制について

貴校の評価の実施体制についてお教えてください。今後の当機構の評価を、より効果的なものとするために参考とさせていただきます。

・評価（自己点検・評価、認証評価等）を行うための実施体制について、その組織名称、役割、設置形態（常設・臨時）、人数構成等をお教えてください。「例」を適宜参考にし、わかりやすくご記入ください。（以下の「例」は削除して結構です。）既存の資料がありましたら、それを添付していただいで結構です。

(記入例)

```
graph TD; A[自己点検・評価委員会] --- B[ワーキンググループ]; A --- C[評価推進室]; B --- D[〇〇学部作業チーム]; B --- E[〇〇〇〇];
```

自己点検・評価委員会
(役割)：評価結果についての最終決定
(形態)：常設
(構成)：学長、理事、・・・
(人数)：〇人

ワーキンググループ
(役割)：評価結果の審議
(形態)：常設
(構成)：理事、各学部長・・・
(人数)：〇人

評価推進室
(役割)：評価に関する事務
(形態)：常設
(構成)：室長、係長・・・
(人数)：〇人

〇〇学部作業チーム
(役割)：データ等の収集・整理
(形態)：臨時
(構成)：〇〇学部長、・・・
(人数)：〇人

〇〇〇〇

他に具体的な説明等がありましたら以下にご記入ください。

・評価の実施体制について、貴校が行っている方策・工夫等がありましたらお教えてください。また、その方策・工夫等について良かった点、悪かった点等、その他ご感想についても併せてお教えてください。

9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について、評価の目的である、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、5又は4とご回答いただいた場合、質の保証にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ② 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、改善の促進にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ③ 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、5又は4とご回答いただいた場合、社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

前回の認証評価を受けた時と比較して、当機構の認証評価プロセスが改善されたかどうかについて、以下の質問に可能な範囲でお答えください。

	非常に良く なっている (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	非常に悪く なっている (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった-----	5	4	3	2	1	
③ 訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適切なものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑤ 評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった ----	5	4	3	2	1	
⑥ 説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑦ 評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった -----	5	4	3	2	1	
⑨ 評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑩ 自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった-----	5	4	3	2	1	
⑪ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった	5	4	3	2	1	

・前頁の項目以外で良くなっていると思う事項がありましたら、ご記入ください。

・前頁の項目以外で悪くなっていると思う事項がありましたら、ご記入ください。

11. その他

- ・実際に評価を受けて期待どおりであったかについてご記入ください。

- ・その他、当機構の行う評価についてご意見等がありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

平成26年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

ご氏名 _____

今回、当機構の評価に携わっていただき、どのように感じられたか、以下の1～7の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものゝ記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に○を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。なお、質問事項に該当する事例がなかった場合等、回答できない場合については、回答欄に「－」とご記入ください（下記参照）。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままです。

いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また記述式のものについては、ご氏名を伏せた上で、公表することといたします。

【回答例】

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

回答例① は、適切であった -----	5	4	3	2	1	3
回答例② は、適切であった -----	5	4	③	2	1	

(回答できない場合)

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

. は、適切であった -----	5	4	3	2	1	－
--------------------------	---	---	---	---	---	---

1. 評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった -----	5	4	3	2	1	
	ある		ない			
⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった -----	2		1			

→※⑤について、2とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった -----	2	1	

→※⑥について、2とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。

2. 評価の方法及び内容・結果について

評価の方法及び内容・結果について（1）自己評価書、（2）書面調査、（3）訪問調査、（4）評価結果の4項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（1）自己評価書について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

・自己評価書の様式についてご意見、ご感想等をご記入ください（特に対象校に事前に伝えたい点、様式上の事項として不足のあった点等があればお聞かせください）。

(2) 書面調査について

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

--

② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

--

・書面調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

(3) 訪問調査について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が確認できなかったかをご記入ください。

③ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

④ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の方法がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の時間配分がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

⑥ 訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であるかをご記入ください。

--

⑧ 訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・訪問調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

(4) 評価結果について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された -	5	4	3	2	1	
② 基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価結果全体としての分量は適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった -----	5	4	3	2	1	

・評価結果についてご意見、ご感想等をご記入ください。

3. 研修について

機構が実施する研修について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 研修の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2	1	
② 研修の説明内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2	1	
③ 研修の内容は役立った -----	5	4	3	2	1	
④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った -----	5	4	3	2	1	
⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった -----	5	4	3	2	1	

・ 研修についてご意見、ご感想等をご記入ください。

4. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、(1) 評価に費やした作業量、(2) 機構が設定した作業期間、(3) 評価作業に費やした労力、(4) 評価作業にかかった時間数の4項目に分けて質問しますのでそれぞれお答えください。

(1) 評価に費やした作業量について

	<作業量>					
	とても 大きい (5)	← 適当 (3)	→ 小さい (1)			
	5	4	3	2	1	
① 自己評価書の書面調査	5	4	3	2	1	
② 訪問調査への参加	5	4	3	2	1	
③ 評価結果(原案)の作成	5	4	3	2	1	

・評価に費やした作業量についてご意見、ご感想等をご記入ください。

①～③について、5とご回答いただいた場合、具体的にどのような作業において作業量が大きかったかをご記入ください。

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

<作業期間>

とても とも
長い ← 適当 → 短い
(5) (3) (1)

- ① 自己評価書の書面調査 -----
- ② 訪問調査への参加 -----
- ③ 評価結果（原案）の作成 -----

	5	4	3	2	1	
① 自己評価書の書面調査 -----	5	4	3	2	1	
② 訪問調査への参加 -----	5	4	3	2	1	
③ 評価結果（原案）の作成 -----	5	4	3	2	1	

・機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	
② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るといった目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(4) 評価作業にかかった時間数について

評価作業にかかったのべ時間数（部会、訪問調査への出席を除く）について、以下の項目ごとに概数でお答えください。

※1校あたりではなく、全体でかかった時間をご回答ください。

① 自己評価書の書面調査	およそ		時間
② 訪問調査の準備	およそ		時間
③ 評価結果（原案）の作成	およそ		時間

・評価作業にかかった時間数についてご意見、ご感想等をご記入ください。

5. 評価部会等の運営について

評価部会、専門部会の人数や構成、運営について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 部会運営は円滑であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価部会等の運営についてご意見、ご感想等をご記入ください。

6. 評価全般について

評価を行ったことによる効果・影響等、評価全般について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも ←言えない (3)	全くそう →思わない (1)			
① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う -----	5	4	3	2	1	
② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う ----	5	4	3	2	1	
③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う -----	5	4	3	2	1	
④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた -----	5	4	3	2	1	
⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	5	4	3	2	1	
⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった -----	5	4	3	2	1	

・評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について、評価の目的である、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、以下の質問に可能な範囲でお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、5又は4とご回答いただいた場合、質の保証にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ② 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、改善の促進にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ③ 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった --

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、5又は4とご回答いただいた場合、社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。